

2015 年度後期  
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 28 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

# 目次

## 基礎教養科目

教員アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載ページ
1	英語Ⅱ	椎野 美知子	演習	1
2	キャリアゼミナール	森永 夕美	演習	2
3	人権と差別	馬越 かよ子	講義	3
4	奈良の伝統行事	奈良まほろばソムリエの会 鈴木 浩	演習	4
5	奈良の伝統行事	奈良まほろばソムリエの会 鉄田 憲男	演習	5
6	フランス語Ⅱ	浅野 友子	演習	6

## 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載ページ
7	医療的ケアⅠ	水野 尚美	講義	7
8	介護過程Ⅱ	小木曾 真司	演習	8
9	介護予防	加藤 明日香	講義	9
10	居住環境整備の技法	北口 照美	演習	10
11	グリーンプランニングⅡ	寺田 孝重	講義	11
12	グリーンプランニングⅡ	山中 尚子	講義	12
13	更生保護制度	尾崎 剛志	講義	13
14	こころとからだのしくみⅠ	小槻 智彩	講義	14
15	こころとからだのしくみⅢ	森田 婦美子	講義	15
16	こころとからだのしくみⅣ	畑下 芳史	講義	16
17	社会福祉施設経営	酒井 宏和	講義	17
18	障害の理解Ⅱ	安永 龍子	講義	18
19	セラピー概論	村本 早希	講義	19
20	発達と老化の理解	吉田 裕司	講義	20

## 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
21	運動生理学	松本 範子	講義	21
22	栄養指導論実習 I	須谷 和子	実習	22
23	公衆栄養学	飯田 晃朝	講義	23
24	社会福祉概論	武田 千幸	講義	24
25	食品材料学(加工学を含む)	池内 ますみ	講義	25
26	人体の構造と機能Ⅱ	毛受 真由美	講義	26
27	生化学	三浦 さつき	講義	27

## 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
28	カラーコーディネート演習	中村 妙子	演習	28
29	経営学総論	向井 光太郎	講義	29
30	経理実務Ⅱ	谷村 真理	講義	30
31	ゼミナールⅡ(ビジネスキャリア)	東出 加奈子	演習	31
32	ビジネス文書Ⅰ	吉村 司	講義	32

## 地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
33	音楽科教育法	安田 寛	講義	33
34	音楽基礎演習 I (ソルフェージュ)	吉田 直子	演習	34
35	音楽基礎演習 I (理論)	中島(上杉) 倍代	演習	35
36	音楽Ⅱ	奥田 尚子	演習	36
37	音楽Ⅱ	玉井 奈摘	演習	37
38	音楽Ⅱ	本間 晶子	演習	38
39	音楽Ⅱ	宮田 眞理	演習	39
40	音楽Ⅳ	山下 玲子	演習	40
41	国語科教育法	川端 建治	講義	41
42	算数科教育法	重松 敬一	講義	42
43	児童家庭福祉	中西 真	講義	43
44	社会的養護	山口 直範	講義	44
45	小児保健 B	早川 淳	講義	45
46	生活	園部 勝章	講義	46
47	生活科教育法	小幡 肇	講義	47
48	体育科教育法	北澤 太野	講義	48
49	道徳の指導法	信田 和則	講義	49
50	保育相談支援	田中 善大	演習	50
51	保育表現演習Ⅱ	藤田 悦代	演習	51
52	保育(表現・幼児造形)	増井 啓子	演習	52

## 専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
53	セラピー概論	竹花 正剛	講義	53

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 椎野 美知子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 英語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8310a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース							
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答	
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース					
	14	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 14.3%	30分 程度 35.7%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 64.3%	ほとんど していない 35.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.14		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 21.4%	適切 であった 50.0%	やや 低かった 7.1%	非常に 低かった 7.1%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.29		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 7.1%	注意 していた 71.4%	ある程度 注意 していた 14.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 7.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.36		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.07		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.86		■				

## 1 授業の概要、特徴等

教科書のモデル文を参照して、易しい英語で自分の事を他人に伝える文を作る。その後、それを皆の前で発表する。この学習を通して、コミュニケーションの手段としての英語への理解を深める。

## 2 アンケート結果に対する見解

授業では、コミュニケーションとしての英語の大切さを繰り返し伝えたつもりだが、今ひとつ理解されなかったように思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

基本英文の暗唱、自分を他者に伝える英作文、その英作文の発表、以上3点に重点を置いて評価を行った。

## 4 授業改善の方法

自分の事を人前で発表するのが苦手な学生が多い。がこれは、社会へでてからも必要なテクニックなので何とか興味を持たせたいと思う。視覚教材や聴覚教材の活用を考えたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 全学  
**科目名称** : キャリアゼミナール **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8008abcde **授業形態** : 演習 **受講者数** : 87名 **回答者数** : 70名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	69	-	1	11	25	3	29	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 1.4%	60分 程度 2.9%	30分 程度 5.7%	ほとんど していない	90.0%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.4%	60分 程度 2.9%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない	85.7%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.11		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 4.3%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 77.1%	やや 低かった 2.9%	非常に 低かった 1.4%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.13		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 25.7%	注意 してい た 34.3%	ある程度 注意 してい た 37.1%	あまり 注意し てい なかつ た 2.9%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.19		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.91		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.23		■				

## 1 授業の概要、特徴等

前期は基本的な社会的マナーや就活について学び、後期はクラス分けを行い、それぞれ学生が目指す分野ごとに、就職後に必要な知識やキャリアアップについて学びを深めた。

## 2 アンケート結果に対する見解

後期は、卒業後福祉現場で働くことを目指す学生が福祉クラスに集まった。一部ではあるが就職先が決まった学生や進学先が決まった学生がおり、全く就活をしていない学生とは興味関心が違うのではないかと考え、就職後のキャリアアップや現場で働いている方からの講義などを盛り込むようにした。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

特に変更しなくてよい。

## 4 授業改善の方法

後期は、進路決定者と未決定者とで少し分けて学べる時間をつくってもよいと思う。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学  
**科目名称** : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8105bc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	56	-	-	1	-	-	55	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.8%	90分 程度 1.8%	60分 程度 1.8%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 82.1%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.8%	90分 程度 1.8%	60分 程度 1.8%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない 80.4%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.38		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.4%	やや 高かった 26.8%	適切 であった 67.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.29		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 32.1%	注意 していた 37.5%	ある程度 注意 していた 30.4%	あまり 注意し てい なかつ た	全く 注意し てい なかつ た	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.32		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.21		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.52		■				

## 1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、基本的な視点や個別課題の両方からアプローチし、人権問題に対する理解と認識を深める。毎時間の授業で、授業内容や授業を通して気づいたこと等をコミュニケーションカードに書き留めて提出させ、次回に学生各人の気づきの内容を提供して、他者の考えから新たな発見等、視野を広げさせる。グループディスカッションを、学生の意思表示の場とするとともにディスカッションのまとめを発表して、他者の評価を受ける。

## 2 アンケート結果に対する見解

科目の性格から、事前事後の各学生の具体的なレッスン時間数を表すことは難しいと思われるが、課題に対する学生の発表やレポート等の内容及びグループの発表等から、事前事後に取り組んだ状況を伺うことができる。人権について、様々な角度から学び深く知ること、学生たちは、ものの味方や考え方が変わったと考えるとともに、気にかかる問題については自ら調べるなど、身近な問題として人権意識の高揚を図る姿勢が培われていると思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深めるとともに、「全ての人間の尊厳」を実現する方向に、人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会がどのようにしたらいいのかを考察する力を身に付けて実践的な行動に踏み出せることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度や指定課題50%、科目修了レポート及び人権メッセージ発表(他者評価を含む)50%により総合的に判断して単位認定する。

## 4 授業改善の方法

ペアディスカッション、グループ討議および発表、加えて自らの考えを伝える力のトレーニングに、絵本の朗読を入れるなど授業に様々な手法を取り入れることにより、9割近い学生が、問題意識や関心が高まったとし、9割を超える学生が、授業が将来に役立つとしている。さらに授業効果を高めるために、身近で今様な問題を加えて、より興味を持たせるよう工夫を重ねたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 奈良まほろばソムリエの会 鈴木 浩 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	25	-	1	-	6	7	-	12	-	1	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.96		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 3.8%	60分程度 -	30分程度 23.1%	ほとんどしていません 73.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 3.8%	60分程度 3.8%	30分程度 15.4%	ほとんどしていません 76.9%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.77		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 11.5%	やや高かった 26.9%	適切であった 61.5%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.46		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 3.8%	注意していた 65.4%	ある程度注意していた 26.9%	あまり注意していません 3.8%	全く注意していません -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.27		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.31		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	2.88		■				

## 1 授業の概要、特徴等

奈良の伝統行事を学ぶことにより日本文化の原点とは何か、又、奈良という地域社会の特色を理解していく。そこで県内の社寺で行われる有名な祭りや伝統芸能の代表32の行事について、臨場感溢れる動画と写真をパワーポイントを駆使して平易に講義した。学生には現地見学してきた行事について、ブレインストーミング手法によるグループ討議を行なわせ、その討議成果をグループごとに、プレゼンテーションを行ない授業の纏めとした。

## 2 アンケート結果に対する見解

昨年の授業では、取り上げた行事が古風なため「年寄り向け」、「物好き向け」との評価もあったので、本年は若者参加の多い行事に焦点を当て取り上げたので、反応は良かったと思う。「この授業が自分の将来に役立つか」との設問に評価が低いのは意外だ。資格、仕事に活かすことよりも、より良い人生を歩むために必要な教養を身につけることがもっと重要であることを認識させたい。このため一層の授業の充実が問われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学びの場である「奈良」に関することについて、多様な視点から理解を深める。そのため、奈良に長く受け継がれてきた伝統行事を知り、内容を把握する。又、行事が行われる現地を見学し、触れ、心に刻み、他者に紹介することができるようになる。こうした観点から成績評価を定めた。授業への参加度20%、理解度を測る小テスト20%とグループ討議によるプレゼンテーション30%、レポート30%の配点基準とした。

## 4 授業改善の方法

伝統行事を取り上げる対象をさらに減らし、行事内容を詳しく学べるようにする。引き続き若者が参加している祭りを重点化して紹介できるようにする。学生の関心を高められるよう、会話のキャッチボールに心掛ける。このため行事の内容を鑑賞したその感想を発表しあい、考えさせ、行事を深く理解させていく。この延長上にグループ討議を進め、プレゼンテーションの質的向上を図られるよう取り組んでいく。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 奈良まほろばソムリエの会 鉄田 憲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	25	-	1	-	6	7	-	12	-	1	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.96	■■■■■					■■■■■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 - 90分 程度 3.8%	60分 程度 - 30分 程度 23.1%	ほとんど していない 73.1%	無回答 -	■■■■■						
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 - 90分 程度 3.8%	60分 程度 3.8%	30分 程度 15.4%	ほとんど していない 76.9%	無回答 -	■■■■■					
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.77	■■■■■					■■■■■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.5%	やや 高かった 26.9%	適切 であった 61.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	■■■■■				
授業の 進め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.46	■■■■■					■■■■■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 3.8%	注意 していた 65.4%	ある程度 注意 していた 26.9%	あまり 注意し てい なかつ た 3.8%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	■■■■■				
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.27	■■■■■					■■■■■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.31	■■■■■					■■■■■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	2.88	■■■■■					■■■■■				

## 1 授業の概要、特徴等

総じて学生の受講態度が悪く、また授業の最後に「理解度確認テスト」をしても、平均的に成績は悪い。また、よく出来ている学生と出来ない学生の差が激しい。よく出来ている学生にとっては、態度が悪い(おしゃべり、内職、居眠りなど)学生が邪魔なのではないだろうか。真面目な中国人留学生に対して、とても恥ずかしい思いである。

## 2 アンケート結果に対する見解

予習・復習に取り組んだ学生がいるとのことだが、信じがたい。ほとんどいないのではないか。それどころか宿題(春日大社のおん祭に関する簡単な調べ物)すらやってこない学生が多く、授業が中断された(別の部屋へパソコンの検索に行ったため)。レポートも、何度も催促しないと出てこなかった。今回もグループワークを取り入れたが、「遊び時間」と勘違いしている学生がおり、特定の学生に負担が偏っていたので、来年度はやり方を見直したい。「福祉の学生とこども科の学生では、授業態度も意欲も違いすぎるので、一緒に授業を受けるのは支障があります」との書き込みがあった。ハッキリ申しあげて、地域こども学科の学生の態度は悪すぎる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

数多くの「理解度確認テスト」を実施し、学生の理解度の把握に努めた。やはり受講態度の悪い学生は成績が悪い。途中で脱落した1人と、最終レポートを提出していない学生1人を除き、全員に単位を与えたが、差は激しかった。

## 4 授業改善の方法

1回生の前期授業であれば、厳しく注意して学生の態度を改めさせるところであるが、後期ではムリ。すでに、授業や講師を軽んじるクセがついている。当会の講師は、昨年、不評だった講師を交代させ、若返りを図ったが、学生の態度や理解度に変化はなかった。授業に対して講師は周到に準備(動画、写真、パワーポイント資料など)しており、それが重い負担となっている。当会は28年度後期授業をもって、講師派遣を一旦中止する方針である。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : フランス語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8335 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース							
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答	
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース					
	7	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 14.3%	ほとんど していない	71.4%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 14.3%	ほとんど していない	71.4%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.29		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 85.7%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.14		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 28.6%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた 28.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.29		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.86		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.71		■				

## 1 授業の概要、特徴等

フランス語Ⅰに引き続き、会話表現を練習しながら初級文法の後半を学ぶ。フランス語Ⅰと同じ教科書を継続して使用する。概ね教科書に沿って授業を進めるが、学生の興味・関心によっては、別にプリント等副教材を活用することもある。

## 2 アンケート結果に対する見解

今年度後期は受講者数が少なく、それぞれの理解度に十分配慮しつつ、個別指導に近い形で授業を進めることができた。密度の濃い授業であったと思う。この点については学生にも伝わっていたようで嬉しく思う。将来に役に立つとはこの時点ではなかなか思ってもらえないかもしれないが、学ぶことの楽しさを、これからも伝えていきたいと思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価については、毎時間の小テスト・課題等の提出物の評価をもとに行う。1年間のしめくりとなるので、例年最後の課題は、フランス語による自由な内容の手紙を書くこととしている。内容を自分で考えているかどうか、1年間学んだフランス語を応用して、自分の言いたいことに近づけることができているかどうか、が評価の基準となる。

## 4 授業改善の方法

まず、教科書の選定に十分配慮すること。今年度の教科書は音声による聞き取りの課題が適切で、授業で活用できたことはよかったと思う。教科書については例文の多いもの、説明が過重でないものを選び、教員が内容を補いながら、学生の興味・関心を保つよう努力している。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 水野 尚美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 医療的ケア I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1570 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	19	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 15.8%	90分 程度 21.1%	60分 程度 21.1%	30分 程度 10.5%	ほとんど していない 31.6%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 15.8%	90分 程度 21.1%	60分 程度 47.4%	30分 程度 5.3%	ほとんど していない 10.5%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.37		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 42.1%	やや 高かった 21.1%	適切 であった 36.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.89		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 36.8%	注意 していた 52.6%	ある程度 注意 していた 10.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.84		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.16		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.42		■				

## 1 授業の概要、特徴等

医療的ケアを行う際の、人間の尊厳を遵守し、倫理観の確立と医療行為に関する多職種との連携を理解する。また、医療的ケアにおける身体の解剖生理等、基本的知識を学ぶ。

## 2 アンケート結果に対する見解

課題の提示を頻回に行なったことで、事前学習や事後学習を行ったという回答が多くなったと考える。しかし、他科目で医療的知識を得たという前提で授業を進めてしまうため、課題と授業内容との理解が不十分だったと思われる。それが、⑩の解答の低さにつながっている。テキストの丸暗記を課したことは、規定通りで行われる医療行為を体験してもらう意図を持っていたが、自由記述に書かれているように、別の方法を考える必要があると考えている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生全員が授業目標を達成できているとは言い難い。成績評価や単位認定については、授業点や小テストを含めた筆記試験の点数などをもとに、厳正に評価した。

## 4 授業改善の方法

授業回数を見直し、基礎的な医療的知識を確認する時間を増やしたい。また、カリキュラム上難しいと思うが、実際の手技と連動して基礎的な知識を得られるような授業案を作成したいと考えている。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 介護過程Ⅱ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1410 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	18	-	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.21		■ ◆					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 10.5%	90分 程度 15.8%	60分 程度 15.8%	30分 程度 36.8%	ほとんど していない 21.1%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 10.5%	90分 程度 21.1%	60分 程度 31.6%	30分 程度 26.3%	ほとんど していない 10.5%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.42		■ ◆					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.5%	やや 高かった 47.4%	適切 であった 36.8%	やや 低かった 5.3%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	3	4.32		■ ◆					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 36.8%	注意 していた 52.6%	ある程度 注意 していた 10.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.47		■ ◆					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.42		■ ◆					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.72		■ ◆					

## 1 授業の概要、特徴等

介護過程Ⅰを基盤に、他科目の知識を活用しながら、生活支援の視点にたち、介護の根拠を思考する。そのため、積極的にグループワークを取り入れ、事例を用いて演習を行う。客観的根拠と支援の妥当性をチームワークの中で検討することは、専門職としての介護を展開する上で重要である。介護過程Ⅱでは、PDCAサイクルにおけるPにあたる介護計画の立案（具体的支援内容、頻度、留意点等）について学習する。

## 2 アンケート結果に対する見解

本科目は、学生間の意見共有を通して、新たな視点やチームワークの重要性に気付くことをねらいとしていた。しかし、グループワークにおける各学生の負担量や、均等な意見交換が難しい等の意見があり、グループワークの進め方について検討する必要がある。また、学生の自己課題に対する具体的解決策の提示が不十分であった。このことは、介護過程に対する苦手意識を強くしてしまうため、学生への個別的な関わりも重要である。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

専門的知識と技術の統合し、客観的根拠を示すことは十分にできていない。しかし、事例演習を通して、介護過程の流れを理解できた。また、展開のなかで、苦慮しながらも専門職としての思考ができていると評価する。シラバスに記載した評価基準に沿って評価を行った結果、不合格者1名であった。

## 4 授業改善の方法

・演習の事例を視覚化し、イメージ作りを促進する。 ・学生に個別的に関わる機会の確保 ・学習目的達成のための具体的解決策の提示  
 ・グループワークのルール作り、構成メンバーの検討 ・授業レベルの調整

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 加藤 明日香 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 介護予防 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	13	-	-	13	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.92		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.7%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 69.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.7%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 69.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.23		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	非常に 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.23		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 15.4%	注意 していた 38.5%	ある程度 注意 していた 38.5%	あまり 注意し てい なかつ た 7.7%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.15		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.08		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.38		■				

## 1 授業の概要、特徴等

授業は主にプリント(穴埋め形式)を使っている。今年から板書ではなくパワーポイントを使用し、適宜画像や映像を取り入れている。他にもビデオや実際の道具なども使いながらイメージがわかりやすいように介護の現場での体験などを伝えながら行っている。授業内容としては介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を学習してもらう。また、介護予防の意味や介護保険の内容も理解できるように授業を行う。

## 2 アンケート結果に対する見解

去年までは専攻科のみであったため概ね全体平均以上であったが、今年は混合となり、アンケートから考察すると授業内容の理解が生活福祉コースの生徒と専攻科の生徒で大きな差が生まれていると考えられる。例年課題であるが、授業中の態度の悪い生徒への指導を強化していきたいと感じる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の達成目標は「介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を知ること。」また、「介護予防の意味や介護保険の内容も理解すること。」である。成績評価基準は出席率、授業態度と提出物とテストで行う。

## 4 授業改善の方法

集中して授業が取り組めるように、授業内容で難しい用語や難しい内容にならないようにする。授業内容についてこれられない生徒については小テストの結果などから拾い上げ、個別に対応できるように配慮していきたい。また、授業態度については生徒が居眠りをしたり携帯を触っていたりする場合は都度注意を行っていく。(成績評価基準における『授業態度』の割合を高く設定することも検討する。)



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 居住環境整備の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1325 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	13	-	-	13	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.77		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 -	30分 程度 38.5%	ほとんど していない 53.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 -	30分 程度 38.5%	ほとんど していない 53.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.85		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 23.1%	適切 であった 76.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.15		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 46.2%	ある程度 注意 していた 46.2%	あまり 注意し てい なかつ た 7.7%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.08		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.31		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.62		■				

## 1 授業の概要、特徴等

住まいを快適な環境として整備するための要件を理解する講義である。介護福祉士養成の科目として、高齢者等への生活を支援する福祉住環境という視点での講義が中心となっているが、人間生活に必要な環境条件を数値で科学的に理解することを基本としている。また、生活は、住まいだけでなく近隣環境のあり方、近隣の人々とのつながりも重要である。本講義では住まいとともに、地域環境も含めて広く生活空間を理解することを特徴としている。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講生の多くは受講態度もよく課題にもまじめに取り組んでいた。日常生活に直結することであるが、実際の生活を観察して理解するよりも、講義で書いたことを頭だけで覚えようとしている。プリントなどに頼っていることがアンケートから推察される。事前事後の勉強の時間は少ないことから、講義内容を日常生活の中で活かすことの難しさを感じられる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は、快適な居住空間として、必要な寸法や温熱環境などの基本的な数値を理解すること、居住環境整備の方法を提案できること、その必要性の根拠を説明できることである。単元ごとに自分の生活空間や設備機器の測定や生活者としての評価などの課題を出している。成績の評価基準は、生活に必要な環境条件の理解度である。最終にはまとめの課題を実施する。単元ごとのレポートと合わせ、基本的な事柄を理解することが出来ていると判断された場合、単位を認定している。

## 4 授業改善の方法

テキストを中心に、板書や図表のプリントを用い、学生が自分の手で書くことで学習が深まるようにしている。難しいとかやりやすさという観点からは、学生が自分の住まいや生活を的確に観察し、表現できるように、学生の提出レポートを題材に、解説しながら身近な問題としての理解を深めていきたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : グリーンプランニングⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1615 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	4	-	-	5	5	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.10		[Progress bar]					◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	10.0%	50.0%	40.0%	-	-	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	10.0%	50.0%	40.0%	-	-	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.20		[Progress bar]					◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-	20.0%	70.0%	10.0%	-	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		[Progress bar]					◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意し ていなかった	全く 注意し ていなかった	無回答	60.0%	40.0%	-	-	-	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.63		[Progress bar]					◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.30		[Progress bar]					◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.40		[Progress bar]					◇				

## 1 授業の概要、特徴等

園芸福祉の現場において、実際に活用されている事柄について、実習および講義を行なった。特に、和楽園における実地体験は、学生にとってレベルの高いものであり、むかつくと思ったかも知れないが、今後貴重な体験となると思われ、学生の反省会における発言には、そのことに気づいていることを思わせるものがあつた。

## 2 アンケート結果に対する見解

本年度の自由記述に表われた評価を重視したい。この講座の本当の意味は、実際に園芸福祉に携わった時に分かるものであるが、たとえその方向に進まない方にも植物を見る目の範囲を広げることができたと思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

レポート内容や実習態度等から考えて、初心者として評価できうるものと思われる。自由記述に反映されているものを重視したいと考える。

## 4 授業改善の方法

実地体験の時に、2回生の参加があると良いのではないかな。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 山中 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : グリーンプランニングⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1615 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	4	-	-	5	5	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.10		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.20		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 20.0%	適切 であった 70.0%	やや 低かった 10.0%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 60.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.63		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.30		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.40		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

園芸の基本技術習得と福祉分野等におけるケアへの活用方法について学び、実習を通して実践力を身につける。特養への訪問実習が含まれることも大きな特徴といえよう。

## 2 アンケート結果に対する見解

概ね想定通り。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標は概ね達成できたものと判断している。授業態度、実習への取り組み姿勢と結果、レポートによって評価した。

## 4 授業改善の方法



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 尾崎 剛志 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 更生保護制度 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1740 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.75		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 低かった	非常に 高かった -	やや 高かった 75.0%	適切 であった 25.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 75.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	2	4.25		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.75		■				

## 1 授業の概要、特徴等

犯罪者をどのようなシステムで更生させようとしているのか、その時にその人を受け入れる地域社会はどのように感じているのか。またその受入れのために、どのような支援が求められているのか等について学ぶ。レジュメの空欄を埋めていく形式の講義と、特徴のある人物や制度について、自分たちで調べ、それを発表する。また更生保護に関連し、社会復帰した人が社会でどのような目で見られ、どのような困難を抱えながら生きるのかについて映像を見ながら考える。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生の評価については、若干気を遣って、高い評価をしているように思われる。それだけ学生との関係が出来ていたといえよい評価だが、理解度を確認した際の、理解度の低さから考えると、それほど理解出来ていないことが分かる。分かり易く授業をするために工夫をしたとはいえ、進度は遅くなり、項目は減り、結果として国家試験で必要な知識が網羅できなかったといえない状況であると考えられる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標については、達成率は半分程度ではないかと考える。理由は上でも述べたとおり、学生が分かるようにすると、進度は遅くなり、項目も減らしながら、これも知っておいた方がよいということは時間の都合上話せない状況となる。課題として出すにも、学生のレポート内容から考えると、それほど深く考えた内容を求めることは難しい。成績評価基準については適当であると考えられるが、単位認定については若干甘いと思われる。

## 4 授業改善の方法

レジュメについては、手直しをして、もう少し学生が考える余地を残さなければならないと考える。空欄を埋めるものも必要だが、考えを発展させるような問いかけが必要。また予習については次回までにまとめておくべき課題として、用語ぐらひは事前学習としてさせても良いかもしれないと考える。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 小槻 智彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : こころとからだのしくみ I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1550 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	1	-	-	17	1	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.32		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 10.5%	60分 程度 5.3%	30分 程度 36.8%	ほとんど していない 47.4%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 10.5%	60分 程度 15.8%	30分 程度 26.3%	ほとんど していない 47.4%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.63		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.5%	やや 高かった -	適切 であった 84.2%	やや 低かった 5.3%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.42		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 63.2%	注意 していた 26.3%	ある程度 注意 していた 5.3%	あまり 注意し てい なかつ た 5.3%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.32		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.58		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.72		■					

## 1 授業の概要、特徴等

介護サービス提供における心理的側面の配慮ができることを目標に、こころのしくみについて説明する授業を行った。特徴としては、(1)受講生が身近な例から考えられるように実践や体験を取り入れ、ビデオ教材も多く使用した点、(2)高齢者自身やその支援者に関わるこころのしくみについて考える課題を設けた点、さらに(3)授業の最初に前回の確認問題を行い、定期的な復習できるようにした点である。

## 2 アンケート結果に対する見解

多くの受講生にとって授業のレベルや教材、進め方は適切なものであり、新しい知識の習得を含め今後の実践へと繋げられるものであったと思われる。進行のペースや難易度については受講生によって感じ方がわかるようであったが、もともとの知識や経験によってある程度のばらつきがあるのは止むを得ないと考えた。毎回行った復習問題は数が少なかったため、長時間の自習を促すものにはなっていないようである。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は(1)こころのしくみについて説明できるようになること、(2)介護サービス提供における心理的配慮が行えるようになることであった。各回の課題や感想、定期試験、アンケートの結果から概ね達成できたと思われる。成績評価は①授業内小レポートと②筆記試験(語句・正誤問題等による理解度の確認、記述問題による実践につながる問題意識の確認)から行い、①②を同配点として、点数を満たしている受講生に単位認定を行った。

## 4 授業改善の方法

全体的な進め方や内容については概ね現行の通りでよいと思われるが、個人差が大きかったため、特に重要な項目については具体例や実践を増やして説明をすること、その一方で応用的な内容も随時含めていくことで改善を図る。また、そのような進め方については受講生にもあらかじめ伝えておく。さらに、授業外の学習時間をとるために、より詳細な復習問題を含めること、また受講環境を整えるために、話し合いや実践を行うとき、教員からの説明など内容の線引きをはっきりと受講生に促し、私語が続かないようにする。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 森田 婦美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : こころとからだのしくみⅢ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1560 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.28		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 22.2%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 33.3%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 44.4%	適切 であった 22.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.56		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.1%	注意 していた 83.3%	ある程度 注意 していた 5.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.44		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.56		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.78		■				

## 1 授業の概要、特徴等

介護福祉士にとって必要な解剖生理学をふまえた授業である。そのため、基礎の学力が求められるが、学生のレジネスを考え、基礎に戻り授業案を作成した。体の内部環境や、障がい・こころの在り様などは学生にとイメージがしにくく苦手意識も多いことから、視覚的アプローチを多く用い授業を行った。結果学生の授業における態度は積極であった。

## 2 アンケート結果に対する見解

全体科目の平均と比較し、全体的に高評価であった。しかし、偏った持論と評価した学生もあり、文献の表示など不足していたことによると考えるえられるため、今後の改善点としていきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

重要なポイントは理解でき、再試験者はいなかった。

## 4 授業改善の方法

学生の自由記述にもあるように、授業における機器のパフォーマンス性を上げることができるよう、努力していきたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 畑下 芳史 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : こころとからだのしくみⅣ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1565 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	18	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	3	4.06		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 5.6%	30分 程度 44.4%	ほとんど していない	44.4%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 16.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない	44.4%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.28		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 27.8%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.11		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた 27.8%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.78		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.11		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.56		■				

## 1 授業の概要、特徴等

超高齢者社会を迎えつつある現在、高齢者介護の中でも口腔の問題に対し、注目が高まっている。中でも介護福祉士の役割は大きいと考えられるが、現状としてその知識、スキルはまだ改善の余地があると考え。これから介護福祉士を目指す学生に対し、口腔疾患の基礎知識、高齢者の病態ならびに、要介護者に対する口腔ケアの方法などを理解してもらい、現場で役立つ介護福祉士の養成を目指す。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講態度については、自らの意志で介護福祉士を目指し短期大学に入学し勉学に励んでいるという前提で考えているため、学生に対し特に課題を出すといったことは行っていない。また授業の内容、進め方については、受講学生の基礎学力や、学生の熱意？などかなりの差があるように見受けられたので、一部の学生にとってはかなりレベルが高くなってしまったものと考え、今後の講義のあり方について考慮したいと考える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この講義を行うに当たって一番の目標としている「口腔に関心を持ってもらう」という点については、ある程度達成できたと考え。成績評価は単位試験の素点のみで行い、60点以上の者に対し単位認定を行った。なお、態度点、出席点などは考慮していない。介護福祉士の国家試験が実施され、その出題基準が提示されれば、単位試験にその内容を取り入れ、単位認定の方法も再考したいと考える。

## 4 授業改善の方法

学生の理解度に応じた講義を行う必要を考えなければならないが、学生間の基礎学力や熱心さの差が大きく、なかなか困難であるのが現状である。先にも記載したが国家試験が実施された際には、出題基準を考慮しすべての学生が理解できる内容が必要であると考える。そのためには動画教材や実習形式などを取り入れ、ビジュアル的なものを多く活用し、学生にアプローチしていきたいと思う。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 酒井 宏和 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 社会福祉施設経営 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1605 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	1	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.40		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.40		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 20.0%	適切 であった 80.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.20		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 80.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.40		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

現代社会における施設経営について理解を深める。施設経営における理念を中心に据え、その必要性について理解する。施設経営の理念について内容を把握する。このことにより、社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップ上で職員として知るべき施設運営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて、知識を得て理解を深めることができる。

## 2 アンケート結果に対する見解

社会福祉施設という現場のケアと異なる視点を持ってもらうために教科書だけでなく動画も活用し理解のし易さに努めた。その結果が狙い通りにアンケート結果に現れている。将来に役立つかどうかという設問と選択設問では平均を下回ったが科目の性質上、致し方ない部分もあるが実際に職につきキャリアを積む中で役立つ内容であることを伝えていきたい。また、困ったことがあれば気軽に質問できる雰囲気作りにも努めたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップ上で職員として知るべき施設運営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて、知識を得て理解を深めることができたという目標については、7名中6名が授業態度やふりかえりの試験において合格点に達し、概ね達成できたのではないかと考えている。毎回、小テストを行い、受講者個別の理解度の把握に努めた。

## 4 授業改善の方法

当授業を担当して3年目となるが、授業改善を進め、ようやく狙い通りの授業を実施できる手応えを感じている。今後は、社会福祉士や保育士、介護福祉士の資格取得を念頭に置き、過去の試験問題も小テストやふりかえりの試験に織り交ぜながらより、実践的な内容となるように改善していきたい。受講生の興味や関心を保つ努力は継続していきたい。教科書も社会福祉士資格取得に準拠したものに変更する。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 障害の理解Ⅱ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1530 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	-	11	4	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.60		■■■■■◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 40.0%	ほとんど していない	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.87		■■■■■◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 53.3%	やや 低かった 6.7%	非常に 低かった 6.7%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.40		■■■■■◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 6.7%	注意 していた 53.3%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 6.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.40		■■■■■◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.60		■■■■■◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.87		■■■■■◇				

## 1 授業の概要、特徴等

障害の医学的な側面の基礎知識を得ることによって、障害のある人の生活や心理的側面を理解する。その上で本人と家族を含めた介護の視点を学び、援助を考える。

## 2 アンケート結果に対する見解

事前学習や事後学習などをほとんど提示していないため、平均の事前・事後の学習時間が10分不足であった。学習の効果を図るために事後・事前学習ができるような課題の設定を考えたい。授業の進め方に対しても、どちらともいえないが3割～4割強あり、説明の仕方や理解度に配慮した進め方を工夫する必要がある。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生は16名であり、生活福祉コース11名と食物栄養コース4名の学生であった。資格取得学生やそうでない学生が混在していた。単位認定(再試験者4名)は15名である。1名は試験欠席であり、追試の手続きをしておらず単位認定していない。

## 4 授業改善の方法

事前・事後学習の課題の検討 授業の進め方の工夫；分かりやすい教材の準備など

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 村本 早希 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	12	-	-	12	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 41.7%	ほとんど していない 58.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.33		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 8.3%	適切 であった 91.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.33		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった 8.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.33		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.25		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

東洋医学とアロマセラピーの基礎的な知識と学び、介護する側や利用者の健康管理や不調の見分け方、対処の方法などを学ぶ。未病（病気に至る前の状態）を理解し、不定愁訴の状態を改善する為の方法として、東洋医学の考えを用いる。お灸や食養、アロマを使い、未病の状態を改善することによって、介護の現場で、介護者や利用者が、心身ともに健やかに良い環境の中で過ごせるようにすることを目標とする。

## 2 アンケート結果に対する見解

昨年もパワーポイントの進め方が少し速いという意見があったので重要なことの問題プリントを配布することにした。昨年出てこなかったパワーポイントの冊子が欲しいという意見は、学生達の理解と興味が進んだということなのかなと思う。難しいと思われがちな東洋医学だが、おもしろかったという言葉が出たことで、入口としては良かったと思う。ここで学んだことを現場に出て実践し、更に理解を深める一歩になったと思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績の評価は、授業への積極的な参加を第一にしていた。その点では今年度の学生からは意見がよく出ていたので、全体的な評価は高くなったと思っている。本科目の理解度と合わせて評価を行ったが、授業への参加度が高いこともあってか理解度も高く、学習目標はかなり達成された。しかし、数名の学生の出席不足や追試験を受けないなどがあったので、もっと声をかけたりフォローを入れるべきだったかと思う。

## 4 授業改善の方法

本年度は人数が更に少なかったこともあり、実習を実施しなかった。来年度は実習を行い、更に経験や学習を深めていってほしいと思う。私自身、介護現場についてより理解を深め実体を把握し、今何が必要をされ、何が求められているのか、しつりとニーズにあったものを、現場に生きた知識を提供できるようにしたいと思う。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 発達と老化の理解 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1505 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 20名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	1	-	-	20	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.20		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 20.0%	60分 程度 35.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 25.0%	無回答 -	◇	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 5.0%	90分 程度 10.0%	60分 程度 45.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 15.0%	無回答 -	◇	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 35.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	◇	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 55.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.10		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.10		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.45		■					

## 1 授業の概要、特徴等

**概要** 介護に必要な加齢医学について学ぶ。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める。  
**特徴** 国家試験に即した内容を中心とする。教科書、スライド、プリント、練習問題を用い声が行きわたる様にマイクを使い、欠席者にもプリントを配布、後部座席にも見える様にカラースライドで公平に伝える。課題では個々の回答を毎回比較検討し、掘り下げた理解を目指す。

## 2 アンケート結果に対する見解

指定席制は授業の雰囲気作りに寄与していると考え、身体的理由がある場合は変更する事がある。教材プリントはコスト面からカラー化は無理である。スライドで補えると考え。画像を使用して理解の向上を図るが高容量の動画の導入予定はない。実習ではないので講義中心となり、質問する時間を設けたりしたが、きつく感じる受講者がいた様だ。介護に医療知識は必須。本人の奮起を期待したい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成介護に必要な加齢医学について学び、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める事を目的とする。成績評価基準と単位認定受講姿勢10%理解度90%で採点し、60%以上の得点で単位を認定する。また基準に満たない場合、課題提出の有無や課題作文の内容を加味して単位を認定する事がある。

## 4 授業改善の方法

国家試験に即した内容を医療面から解説している。介護の背景を知る事は、確かな介護技術を身に付けるために欠かせない。昨今、巷で言われる介護離職や虐待の問題は介護職の技術不足が一因とも言える。介護技術につながる基礎知識である事をアピールし、受講者の意識や学習意欲を高めていきたい。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 松本 範子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 運動生理学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2130 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	31	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.26		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 6.5%	60分 程度 -	30分 程度 12.9%	ほとんど していない	80.6%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.5%	60分 程度 -	30分 程度 9.7%	ほとんど していない	83.9%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.48		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.1%	やや 高かった 35.5%	適切 であった 48.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.26		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 25.8%	注意 していた 58.1%	ある程度 注意 していた 16.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.10		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.10		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.16		■				

## 1 授業の概要、特徴等

本授業の概要は、生体のしくみと構造について学び、身体の生理機能がどのように連携し、運動を可能にしているか学修することを目的としている。運動負荷時の身体変化について、神経、筋肉など各器官の働きを確認しながら、栄養学・生理学・トレーニング学を学ぶため、授業内では実際に筋肉運動や心拍数などの計測をするなど、学生の身体を用いた体験型学習も加えて行った。

## 2 アンケート結果に対する見解

授業の進行は、それぞれの学生に質問や発言を求めながら行うようにした。ただし、重要点については、質問を何度か繰り返しながら行ったため、すでに理解している学生には、退屈感が生じた面は否めない。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は、シラバスに基づき、平常点(出席数、授業態度、積極性を含む)(50%) 定期試験(50%)とした。なお、平常点については、それぞれを数値化し、定期試験結果との合計点を成績評価として決定した。授業の目的達成は、運動を切口に生理学・生化学の基本的理解を応用して考えられるよう、また、栄養士としての栄養成分の考え方などについては、学生から理解しやすいとの回答もいただき、少なからず授業の目的達成は行えていると考える。

## 4 授業改善の方法

授業の内容や進行は、その都度、学生の状況を把握して行っているため、今後も同様の対応を行う予定である。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 須谷 和子 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 栄養指導論実習 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2210 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.3%	90分 程度 3.3%	60分 程度 13.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 46.7%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 13.3%	90分 程度 10.0%	60分 程度 20.0%	30分 程度 43.3%	ほとんど していない 13.3%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.17		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.13		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 10.0%	注意 していた 66.7%	ある程度 注意 していた 23.3%	あまり 注意し てい なかつ た	全く 注意し てい なかつ た	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.20		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.63		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

栄養指導をするにあたり、必要な知識(食生活指針、食事バランスガイドの概要、食事摂取基準、荷重平均栄養成分計算、食品群の特徴、献立作成、パソコンを使用した栄養価計算、一週間の献立作成、献立評価食品比率の算出、食事バランスガイドを用いた卓上カード作成など)を理解し、献立の作成ができることを最終目標としている。この授業は2回生の給食管理実習に不可欠な内容を多く含んでいるため、他の教科と重複する部分も多いが、繰り返し取り上げることで理解度を深めてもらうねらいもある。学生が「難しい」と感じている食品の取り合わせや分量、料理内容に適した食材の分量を把握してもらうため、最後の授業時に秤量実習を行った。

## 2 アンケート結果に対する見解

栄養士として現場で仕事をするうえで1週間分の献立がスムーズに立てられることは必須条件である。そのため栄養価計算からはじまり、手書きの献立作成、パソコンの「栄養君」ソフトを用いた作成と段階を踏んで説明を行っている。学生の習熟度によって個別に説明を要する学生もあり、可能な限り対応したつもりである。ただ、「分かりにくかった」という意見もあり、次年度は改善に努めたい。「給食実務論」と並行して進めた部分があり、課題の提出先など学生の混乱を招いたようで、この点についても次年度改善する。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成は栄養君を使って1週間分の献立がスムーズに立てられるようになることである。成績評価基準は授業態度30%、課題提出50%、理解度20%とした。献立作成に至るまでに要する時間が年々増える傾向にあるため、こまめに提出物を点検しやり取りを重ねた。個人の立てた献立を食品バランスガイドの「コマ」で作成し、簡単な栄養媒体(卓上メモ)を作るところまでを課題とした。個人差はあるものの、しっかりと取り組む姿勢が見受けられた。

## 4 授業改善の方法

今年度は授業計画も見ながら、「給食実務論」担当教員と連携をとり、内容が重なる食品構成基準や献立作成の基礎の部分を重点的に指導した。アンケートからこの取り組みの効果はうかがえず、課題の提出に関してかえって混乱をさせたようである。この点は次年度改善し、分かりやすい説明に努めたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 飯田 晃朝 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 公衆栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2220 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 28名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	28	-	-	-	27	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.07		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 3.6%	30分 程度 3.6%	ほとんど していない 89.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 3.6%	30分 程度 -	ほとんど していない 92.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.07		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 10.7%	やや 高かった 42.9%	適切 であった 46.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.82		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 28.6%	注意 していた 21.4%	ある程度 注意 していた 46.4%	あまり 注意して いなかった 3.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.86		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.68		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	3.63		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

講義の概要は、①国民の健康増進や生活習慣改善の重要性を理解する。②地域全体の健康・栄養問題とそれを取り巻く要因に関する情報を収集し、分析・評価・判定する能力を養う。③栄養士免許に必要な知識を習得することである。

## 2 アンケート結果に対する見解

約70%の学生が、講義内容について理解できたと述べているが、そう感じていない学生も中にいた。学生の興味の引けるように、またイメージができるように、今後は経験談や視覚教材を効果的に用いたいと考える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

平常点15%、試験85%の合計で評価を行った。

## 4 授業改善の方法

講義に栄養士免許に必要な知識確認を行うために、毎回問題を解いた。講義に集中できるように、講義中に解答とその根拠を述べていた。しかし解答をプリントが欲しい学生がおり、今後は配慮を行っていきたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 武田 千幸 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 社会福祉概論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2110 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	29	1	-	-	-	30	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	3	4.33		[Progress bar]				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.3%	90分 程度 -	60分 程度 6.7%	30分 程度 13.3%	ほとんど していない	76.7%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 6.7%	90分 程度 -	60分 程度 10.0%	30分 程度 13.3%	ほとんど していない	70.0%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.27		[Progress bar]				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 3.3%	やや 高かった 36.7%	適切 であった 53.3%	やや 低かった 6.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17		[Progress bar]				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 10.0%	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 23.3%	あまり 注意して いなかった 6.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.03		[Progress bar]				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.83		[Progress bar]				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.97		[Progress bar]				

## 1 授業の概要、特徴等

本講義は生活未来科(ビジネスキャリアコース・食物栄養コース)の学生を対象に開講している科目である。社会福祉の基礎について理解し、社会保障や生活保護制度について学ぶことで、社会福祉問題の理解を深めることを目的としている。また、福祉に関わる専門職の役割について理解することも目的としている。今後福祉現場で働こうと考えている学生にとっても、それ以外の学生にとっても将来の職業は関係なく、社会保障や介護について、超高齢社会の日本で生活するうえで必要な知識を身につける講義となっている。

## 2 アンケート結果に対する見解

今年度の受講生は食物栄養コースの学生のみであった。高校時代に初任者研修を終えてきた学生も多く、福祉に関心があるものと考えて講義を行ったが、こちらの思いとは差があったのだと感じた。食物栄養コースの学生に対してのこの講義を担当することが私自身始めてであり、もっと学生の興味を惹く内容にしなければいけなかったと感じた。将来学生の身に降りかかってくる年金について、介護について等、伝えつもりであったが、学生にとってはまだ遠い存在の話として、身近に感じる事ができなかったのだと考える。伝え方、見せ方の工夫がもっと必要であると感じた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

平常点(受講姿勢、課題の提出など)60%と定期試験の結果40%をもって成績評価を行った。受講姿勢としては出席を主とし、課題を課すことはなかったためグループワークの様子や自己紹介シート、自己覚知シートの内容から平常点を導き出した。加えて定期試験の結果から成績評価を行った。再試験対象者4名、追試験対象者1名がおり、レポート課題を課した。テキスト内の指定された範囲をまとめ、自身の課題や感想を追記するように指示した。それぞれ自分で内容をまとめ、感想もかけていたため単位認定を行った。

## 4 授業改善の方法

生活福祉コースと違い、食物栄養コースの1回生は福祉に関わった経験がない学生もいるため、まずは福祉が身近に感じられるような講義から始めなければならない。DVDを活用し、福祉の現場や、利用者の姿を映像で知ることをもっと取り入れていきたい。また、社会保障や公的扶助の説明はもちろんのこと、手話や点字など、身体を使って学ぶような内容も含めていくと、学生が関心をもって講義を受けることができるのではないかと考える。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 食品材料学(加工学を含む) **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 33名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	32	-	1	-	-	31	1	-	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.24		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 3.0%	90分 程度 -	60分 程度 21.2%	30分 程度 12.1%	ほとんど していない 63.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.0%	90分 程度 6.1%	60分 程度 21.2%	30分 程度 21.2%	ほとんど していない 48.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.52		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 9.1%	やや 高かった 36.4%	適切 であった 54.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.27		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 15.2%	注意 していた 57.6%	ある程度 注意 していた 21.2%	あまり 注意して いなかった 6.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.24		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.30		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.42		■				

## 1 授業の概要、特徴等

前期の食品科学に続く食品の各論を学ぶ授業である。栄養士に必要な食品別成分や素材としての特徴を理解することを目的とする。また、フードスペシャリストや食の6次産業化プロデューサーの資格要件にもなっている。食材を組み合わせる際に必要な知識を修得することが求められる。

## 2 アンケート結果に対する見解

事前学習については、食品の種類ごとに成分表を完成させることを課題に出していたが、毎回きちんと提出できていた学生とそうではない学生がはっきりと分かれた。次年度より成分表が大きく変わるため、それを機会に改めて事前課題について吟味したい。事後学習をする機会については、特に決まった形のもを課題として課していなかったが、各回の学修内容を定着させるためにも、多くの時間をかけずに振り返ることができるような課題を考えたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

定期試験を実施する前に15回目の授業でじっくりと振り返りを行う機会を設けることができるようになったことから、再試験受験者を減らすことができるようになった。

## 4 授業改善の方法

今年度は授業で用いるパワーポイントを虫食いプリントとして配布し、重要な用語について書かせるように工夫したため、授業は比較的スムーズに進行することができた。今後知識を詰め込むだけでなく、実際の献立作成の場面で実践できる力を身に付けたことが確認できる方法を検討したい。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 人体の構造と機能Ⅱ **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2120 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 34名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.23		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.3%	90分 程度 3.3%	60分 程度 20.0%	30分 程度 26.7%	ほとんど していない 46.7%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.7%	90分 程度 3.3%	60分 程度 26.7%	30分 程度 36.7%	ほとんど していない 26.7%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 36.7%	適切 であった 56.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.33		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 13.3%	注意 していた 53.3%	ある程度 注意 していた 30.0%	あまり 注意し てい なかつ た 3.3%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.23		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.30		■				

## 1 授業の概要、特徴等

消化器系を中心に、人体のしくみについて説明した。教科書の図を用いて、視覚的に人体の成り立ちを知るだけでなく、どのようなはたらきをするか、具体例を提示しながら 人体のはたらきについて能動的に考えながら理解するように努めた。

## 2 アンケート結果に対する見解

解剖学の専門用語が出てくるため、授業を難解に感じる学生が多いのであろう。と同時に 授業を通じて興味を持つ学生も多いのはうれしい。解剖生理だけ学んだ今は、将来に役立つ実感が乏しいのは仕方ない。2回生で臨床的な事象を学んだ時に「役立つ」ことに気付けると思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

毎回授業終わりに その日の授業内容について 設問をだし筆記で解答してもらった。2~3単元終了するごとに、さらに詳しく内容を筆記で問い、理解が不十分と思われることについては、再度説明した。繰り返し説明したので、理解しようとする意識があれば 単位の認定は可能であった。

## 4 授業改善の方法

難解だが興味を持てるように、レジュメの内容等 再考したい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 三浦 さつき **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 生化学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2135 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 37名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	31	6	-	-	-	36	-	-	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.14	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.1%	90分 程度 2.7%	60分 程度 18.9%	30分 程度 27.0%	ほとんど していない 43.2%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 16.2%	90分 程度 10.8%	60分 程度 16.2%	30分 程度 37.8%	ほとんど していない 18.9%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.19	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 43.2%	やや 高かった 48.6%	適切 であった 8.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.89	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 21.6%	注意 してい た 56.8%	ある程度 注意 してい た 16.2%	あまり 注意し てい なかつ た 2.7%	全く 注意し てい なかつ た 2.7%	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.75	■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.78	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00	■				

## 1 授業の概要、特徴等

1回生前後に「基礎栄養学」において、五大栄養素について学んだことをもとに、体内での機能や代謝、遺伝子等について学ぶ1回生後期の講義科目である。前期の「基礎栄養学」では穴埋め式のプリントを配布して授業を進めていたが、複雑な代謝について教科書に掲載の図表を活用して教科書の本文に沿って説明をすることで、理解を深められるようにした。細かい構造式や物質名を覚えることよりも、全体の代謝の流れなどが把握できるようにすることを目的として、授業で学んだ部分の復習として課題プリントを配布し、教科書で調べて学びを深められるようにした。

## 2 アンケート結果に対する見解

自由記述において、プリントがあったほうがよいという意見やノートをとれるようにしてほしいという意見があった。ノート板書に時間がかかる学生が増えてきたため、構造式などの板書に時間がかかることが想定され、テキスト掲載の図に書き込むようにしたが、学生としては理解につながりにくい面もあったことがわかった。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

前半に1回、後半に1回、まとめの確認テストを行い、評価の指標とした。教科書持ち込み可とため、復習せずにその場で調べて解こうとする学生もおり残念であったが、事前にまとめのノートを作成する学生などおり、確認試験でも高い点数が出ていた。テストの内容は復習を含めて補足説明を加えて解説した。

## 4 授業改善の方法

今年度からの担当であり、前年度の再履修学生もいるという科目で、学生の理解度の把握が難しい面があった。理系寄りの科目で、学生の苦手意識の多い分野であることから、基礎的な部分の補足説明を多く増やして、理解を深められるように工夫していきたい。また、次年度は一部プリントも活用しながら進めることも検討したい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : カラーコーディネート演習 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3430 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	1	-	-	-	7	-	1	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 12.5%	60分 程度 25.0%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 37.5%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 25.0%	60分 程度 12.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 25.0%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 62.5%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.13		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 37.5%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.38		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.13		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.25		■				

## 1 授業の概要、特徴等

色が見える原理や色の様々な現象を理解する。色を表し、正確に伝えることができ、さらに、色の測定原理がわかる。色がもたらす心理的効果を理解する。色彩の特性や調和理論を理解し、色彩をコーディネートすることができるなど、カラーコーディネータとして必要な基本的な知識を修得する。毎回練習問題を行い、知識を修得していることを確認しながら進めている。カラーコーディネート検定試験の合格を目指す。

## 2 アンケート結果に対する見解

事前学習時間が、45分/週、事後学習時間が52.5分/週となっており、私の他の教科よりは、時間数は多いが、事前事後とも、ほとんど学習していない学生もいる。この中で、カラーコーディネート検定を受験する学生は、約半数であり、事前事後学習時間に差が生じたものと考えられる。目標が明確であり、こつこつと学ぶことにより、成果が得られるので、日々の学習の大切さが分かる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カラーコーディネート検定3級程度の知識を修得できていることを目標としている。検定に合格した学生は、その目標達成ができたと言える。学生の約半数は、検定試験を受けるが、残りの半数は、検定試験を受けないので、毎週の練習問題と、模擬試験問題で、成績評価をし、60点以上取れていれば、単位認定を行っている。

## 4 授業改善の方法

説明が速く分かりにくかった。もう少しゆっくりと説明して欲しかった。との声を頂いているので、意識をして、ゆっくりと丁寧に説明するように心がけたい。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 経営学総論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3150 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 20名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	-	1	-	16	1	2	-	-	1	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.25	■					◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 5.0%	60分程度 10.0%	30分程度 35.0%	ほとんどしていません 50.0%	無回答 -						
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 5.0%	60分程度 10.0%	30分程度 50.0%	ほとんどしていません 35.0%	無回答 -						
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50	■					◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 5.0%	やや高かった 25.0%	適切であった 70.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -					
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.40	■					◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 40.0%	注意していた 45.0%	ある程度注意していた 15.0%	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -					
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.60	■					◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.05	■					◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.30	■					◇				

## 1 授業の概要、特徴等

本科目は、経営学を体系的に学ぶもので、「経営戦略」「組織」「事業」など履修学生の業務に落とし込まれる根幹の考え方を学ぶ授業である。馴染みのない科目を身近に感じられるよう、ケース事例は履修学生にも扱いやすいものを選んで、その製品を販売するまでに至るマーケティング思考についても解説しながら、教科書に沿った指導を心掛けた。また、コミュニケーション機会を取り入れ、学生が自ら考え発信することにより経営感覚の一部でも備えてもらえるよう工夫した。

## 2 アンケート結果に対する見解

本科目では、教科書・スライド・解説・学生のプレゼンテーション・学生のロールプレイ・双方向コミュニケーションなどを組み合わせて講義を展開したので、経営学のイメージや基本知識は備えられたと認識している。ただし、社会人学生の履修することが認められていることもあり、より実践的な内容を盛り込むことができたとも感じている。より具体的なケースや題材を厳選し、卒業後の職場でどのように行動するかまで踏み込んだ現実的な知識もインプットしていきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本学の教育理念「一. 自律する人 二. 自己と他者を尊重する人 三. 事象に自ら関わる人」を、教養面(専門知識、専門技術)、人間性(マナー、就学意識)、思考力(課題発見力、課題解決力)、行動力(チームワーク、情報発信力)の点から評価した。そこで、講義への出席回数、コミュニケーション力、知識の裏付け、講義態度、観点、情報量、持論、プレゼンテーションに分けて客観評価を行い、単位認定に結びつけた。ビジネスの現場で必要になる「独創性」の有無を特に評価した。

## 4 授業改善の方法

経営感覚とマーケティング感覚をより刺激し、また数字の理解を価格や売上または利益に関係するデータなどから促せるように、より実践的な指導を行いたい。また、専門用語や関連用語などは履修生の卒業後の職場でも必要になることもあるので、ビジネス用語の解説なども盛り込むようにしたい。そして、コミュニケーション機会の創出により知識をどのように生かして経営戦略の一端を担うかを問いかけて、経営学を自分の仕事に不可欠な思考であることを根付かせたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 経理実務Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3170 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 2名 **回答者数** : 1名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	5.00		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない	無回答	100.0%	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない	無回答	100.0%	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 100.0%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.00		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■					

## 1 授業の概要、特徴等

後期では、前期に引き続き簿記の講義を行うとともに、実務で役立つ数字の読み方や経営分析の仕方を身につけてもらうことに重点を置いた。特に後半では、アルバイト先企業の分析及びプレゼンテーション(グループワーク)などを行い、座学にとどまらない講義を心掛けた。また、1回生ということもあり、PPTの扱いに慣れていない学生もいたため、PPTを使ったプレゼンノウハウについても指導した。

## 2 アンケート結果に対する見解

概ね妥当と考える。総じて学生のモチベーションが高かったことが、授業自体の満足度につながった。ただし、出席率や既学状況等が理解度の差に影響し、毎回個々の理解度確認に苦慮した点は否めない。レベルに応じた個別指導をよりきめ細かく行うことで、満足度向上につなげていきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一年を通じて、「実務に役立つ経理の感覚」の習得に力点を置いた結果、複式簿記の基本的な概念や数字感覚を身につけてもらうことはできたと考える。特に最後の企業分析では、アルバイト先の企業のwebサイト等を熱心に読み込み、精度の高い分析を行った。

## 4 授業改善の方法

理解度の個人差が大きい分野であるが、今年度は総じて学生のモチベーションの高さが際立ち、各自のレベルに応じて、それぞれが大いに実力を伸ばした。引き続きそれぞれの理解度を把握しながらきめ細かなフォローをしていくとともに、学生の興味対象を汲み取りながら、臨機応変に力点ポイントを変更していきたいと考える。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 東出 加奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : ゼミナールⅡ (ビジネスキャリア) **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3920 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 2名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	5.00	◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしていません	無回答	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしていません	無回答	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00	◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	5.00	◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 注意していた	ある程度注意していた	あまり注意していません	全く注意していません	無回答	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00	◆				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	5.00	◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00	◆				

## 1 授業の概要、特徴等

現代の社会情勢や経済動向を踏まえ、将来、職業人として適応するための基礎を身につける内容である。自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、広い視野を持ち、出来るだけ精度の高い情報の収集を身につけることを目指した。とくに新聞記事を取り上げ、自らの意見を述べるができるよう発言の機会を設け、議論を通して客観的に問題解決のための技法を習得できるよう進めていった。

## 2 アンケート結果に対する見解

各項目において授業で目指していた内容を上回っており、とおおむね良い評価であった。将来に役立つ内容であったと思う項目については、特に力を入れた点であり次年度の卒論に向けての情報収集のポイントを伝えることができたと思う。また、受講生の理解度を配慮しながら授業を進める項目については、少人数であったことから補足説明しつつ進めるとともに、十分に議論ができるよう心がけたことが結果に結びついたと言える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

前半は、昨今の社会においてさまざまな情報の活用方法と特徴を提起し、各自が意識的に情報の範囲や深さを追求できるよう進めていった。後半では、受講生が各自選択したテーマを提起し、その内容について自らの意見を述べるとともに、受講生全員でさまざまな問題点を意見交換しあう機会を設けた。したがって、参加することの重要性から出席率、各テーマにおける積極的な参加意識、テーマ提起の準備による総合評価を行った。

## 4 授業改善の方法

日常において、新聞やニュースといった情報網に意識を持ってもらえるよう、身近な話題を中心に進めていった。仮説や問題意識をもって接することで情報収集のポイントを身につけ、見識を深めることができるようになったと考える。改善としては、職業観を高めるうえで、ビジネスの現場に直結するテーマを折り込み、情報の分析力を高めていくことが挙げられるが、引き続き2回生のゼミで卒論準備に向けての課題とする。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 吉村 司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : ビジネス文書 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3127 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	2	-	-	-	2	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	◇
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	◇
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった -	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	◇
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.67		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	5.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

ビジネス文書の基本的な書式から、会社における基本業務を踏まえ「ビジネス文書検定」および業務文書、社交文書、提案書、自己紹介書、履歴書、志望動機書等実践的なビジネス文書テンプレートを活用し、オリジナル教材による講義、演習、ワークショップを通じてビジネス文書の理解・企画・作成・活用力を高めるとともに、毎回の1分間スピーチや授業内の発表により、文書構成力やプレゼンテーション力の向上を目指した。

## 2 アンケート結果に対する見解

一番の課題は予復習時間が少なさであったが、宿題レポートや次回授業のテーマに即した事前課題等を毎回の授業に織り込み自然に予復習に取り組めるパターンを作っていく。次に受講態度は特に問題なかったのに控えめな貢献度(①)と感じたには、欠席や授業中十分に発表・回答出来なかった反省が内包されているかもしれない。最後に一番気掛かりであった「この授業は将来役に立つか」や授業の進め方、教材については全員が納得感を示し、授業を通じて気づきやビジネス文書習得の必要性に一定の理解が得られた様に感じた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成については「2」の通り。成績評価基準は平常点(50%) (①出席②受講姿勢)、コミュニケーション力(30%) (①プレゼンテーション力②対人理解力③対人配慮力)、理解度(20%) (①レポート内容②論述試験)および学修成果等の各評価項目をS~Eの6段階で評価し点数化。単純な出席点ではなく、毎回授業終了後に提出するメールレポートや授業貢献を毎回採点し、授業の理解力のみならず企画力、文書構成力、プレゼンテーション力やファシリテーション力等多角的な評価を心掛けて単位認定した。

## 4 授業改善の方法

まず予復習の習慣化については「2」の通り。次にビジネス文書を学ぶ必然性や授業内容・進め方、教材については一定の満足度が得られたので、これをさらに維持・発展させる。またビジネスシーンにおけるインターネット活用は日常のかつより効率化しており、授業の中でもインターネット環境下での各種ビジネス文書の展開により重点を置いて説明してきた。ビジネス経験に乏しい学生各位に対してよりリアルに実感出来る事例、記事、データ等を駆使しながら、彼ら彼女らの等身大の経験に響く授業素材をできるだけ集めて教材に反映し授業内で展開することで、より理解が深まる授業作りにチャレンジしていきたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 安田 寛 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53035 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 12.5%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	3.63		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 37.5%	適切 であった 62.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった -	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 37.5%	あまり 注意して いなかった 12.5%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.88		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

受講生が少いので個人個人に目が届くなどいい面もあったが、ゼミのような雰囲気になり、個々人のこれまで獲得した、この授業に関する能力に配慮しすぎた面があり、組織的体系的知識の獲得という面では不十分な点もあったと思われる。学習指導要領、歌唱共通教材の理解と運用、音楽表現技術の理解と獲得、その教へ方など、幅広い学習内容を教える難しさをどう克服するか日々悩む授業であった。

## 2 アンケート結果に対する見解

自分の予想よりはやや低い結果であったが、了解できる結果であった。特に低い「教科書、視聴覚教材(ビデオなど)は、授業の理解に役立ちましたか」については、学生はもっと分かりやすさを求めていると受けとめた。「授業のねらい・目的がよく理解できましたか」が低いのは、力を注いだ項目だっただけに残念な結果であるが、原因を吟味し、改善に繋げてゆきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

小学校の教員になった時に、音楽の授業を遂行する時に必要となる留意点、必要な基礎知識、それを支えている原理や考え方を学び、身につけるという目標は、概ね達成できたように思う。成績評価基準については、普段の授業への参加態度、関心意欲、発問等の積極性を重視した。単位認定に関しては、特に問題となることはなかった。

## 4 授業改善の方法

全体に平均に届いていない事を配慮して、事前事後の学習をもっと課して、学ぶ意欲関心を高める工夫が必要とされていることを感じた。また、この授業を授講するのに必要な基礎学力の不足を補うため、きめ細いプリントを用意したり、理解を助ける視聴覚教材をもっと活用することの重要性を再認識させられた。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 吉田 直子 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽基礎演習 I (ソルフェージュ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55410ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 54名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	53	-	-	1	-	-	-	54	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.28	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.9%	90分 程度 3.7%	60分 程度 22.2%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.9%	90分 程度 5.6%	60分 程度 20.4%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 20.4%	やや 高かった 29.6%	適切 であった 44.4%	やや 低かった 3.7%	非常に 低かった 1.9%	無回答 -
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.19	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 16.7%	注意 していた 63.0%	ある程度 注意 していた 18.5%	あまり 注意して いなかった 1.9%	全く 注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.19	■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.57	■				

## 1 授業の概要、特徴等

楽譜を読み取るために必要な知識(理論)と音楽的な基礎能力をつけることを目的とする。楽譜が読めない学生に、譜読みとリズム反応、視唱を中心に演習した「音楽基礎演習 I」をふまえ、実際の子どもの歌の楽譜を見て、音符とリズムを読み取り、メロディや伴奏をピアノで弾いたり、歌ったりして自立して楽譜から曲を表現できる力をつけるよう授業をおこなった。クラスは能力別に2つに分けて授業を実施したが、10年以上ピアノ等習ってきた学生と入学してから初めて習う学生等、学生の進度による能力差の段階は2つの能力別クラスでは十分対応できているとはいえない。

## 2 アンケート結果に対する見解

クラス授業では11月の実習に必要な曲を採り上げて、歌ったり、メロディを弾いたり、実習に役立つことを意識して授業したが、ピアノ経験が少ない学生には難しく、経験がある学生には易しい内容になったことは承知している。ただ、ピアノ経験がなかった学生にも練習方法や適切な指使いなど丁寧に指導しており、達成は学生自身の意欲や態度に左右された。初心者には難しくても実習で要求される授業レベルを落とすことは難しい面がある。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業は理論と音楽基礎能力の2分野に分けておこなったので、両授業の達成度、授業態度に加え、実力差を考慮して進捗度も平常点に加えて非常に力をつけた初心者には高い評価をつけ評価して半年程度の履修で楽譜をスラスラ読んで弾くこと、歌うことはかなり難しい学習内容であることを考慮した。

## 4 授業改善の方法

1年目の結果を踏まえ次年度に向けて、「音楽基礎演習 I」の段階から子どもの歌を採り上げて、譜読みやリズム演習を通じて実習前のある程度子どもの歌を学習させることを試みたい。また、「音楽基礎演習 II」では実践的に簡単な伴奏づけもさせたが、学生の実力に応じてメロディだけの視奏にすることもやむをえない場合は様子を見て考えたい。また、「音楽 II」のピアノの宿題もあるので負担が過重になることを懸念して「音楽基礎演習」では宿題を課さなかったが、学生別に宿題を課すことも考えたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 中島(上杉) 倍代      **職名** : 非常勤      **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽基礎演習 I (理論)      **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55410a      **授業形態** : 演習      **受講者数** : 38名      **回答者数** : 28名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	28	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.36		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 14.3%	30分 程度 32.1%	ほとんど していない	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 10.7%	30分 程度 35.7%	ほとんど していない	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.54		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 32.1%	適切 であった 57.1%	やや 低かった 3.6%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.64		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 7.1%	注意 していた 67.9%	ある程度 注意 していた 21.4%	あまり 注意して いなかった 3.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.52		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.18		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■				

## 1 授業の概要、特徴等

90分を2分割して、音楽理論とソルフェージュの授業を行う。私の担当は音楽理論である。前期に通期学習した内容をもう一度復習しながら更に高いレベルまで学ぶ。楽譜のルールや子供の歌の簡易伴奏の付け方などについて適宜実習を入れ知識を確実にしていく。

## 2 アンケート結果に対する見解

比較的「分かり易かった」という意見が聞かれて良かったと感じている。学習範囲が広いので、一旦つまずくと回復出来なくなる。これからも充分注意して質問をしたり受け付けたりしたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

あまり知らない曲を演奏する時に習った知識を使って演奏出来る様になって欲しい。色んな分野の基礎の部分を理解し、又は教科書を探せば思い出せる程度が必要。

## 4 授業改善の方法

本当に必要な部分は何かを良く練り今以上に実戦的な知識となる様楽譜を使った説明を増加する。そして学生の反応に注意してきめ細かい対応をしていく。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55305ab・bb・ca **授業形態** : 演習 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 17名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	16	1	-	-	-	-	-	17	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.35		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 5.9%	60分 程度 35.3%	30分 程度 35.3%	ほとんど していない 23.5%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 5.9%	60分 程度 35.3%	30分 程度 29.4%	ほとんど していない 29.4%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.53		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.8%	やや 高かった 52.9%	適切 であった 35.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.65		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 47.1%	注意 していた 41.2%	ある程度 注意 していた 11.8%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.59		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.41		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.82		■					

## 1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰの学習成果をふまえて 保育士 幼稚園教諭として保育現場で必要なピアノの基礎演奏技術の向上をめざす。グレードの進んだ学生については 次年度の弾き歌い課題を学習し 沢山の曲をレパートリーに出来るように学習する。

## 2 アンケート結果に対する見解

音楽Ⅰに比べて 難しい課題になり苦労している学生も見受けられたが、努力して積み重ねて 技術を習得していくことの大切さを理解し、みな諦めずに取り組んでいたことは良かった。自分なりに工夫して読譜し 弾きこなし 表現していくことの大切さを伝えるように心掛けた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

次年度に必要な最低限の知識 技術は達成できたと思う。進度の進んだ学生に次年度の授業の弾き歌いを前倒して経験させることで ピアノの授業の目的がはっきりし、意欲的な取り組みが見受けられた。グレードの導入で 達成感が得られていると思う。

## 4 授業改善の方法

2人グループ 3人グループのグループ分けが固定し不公平感が聞かれた 特に前期後期3人グループの学生の不満があった。後期は進度に考慮しグループ分けが必要と思う。ML授業の終了が遅く 後半の時間が短くなる時があった。全体授業の終了は移動時間を考慮し、個人レッスンの時間確保に努めるべきと思う。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55305ac・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 12名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	12	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価							
		学生の評価平均		■ 学生の評価平均							
		1	2	3	4	5					
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.17		■						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 8.3%	90分程度 16.7%	60分程度 33.3%	30分程度 16.7%	ほとんどしていない 25.0%	無回答	-		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 8.3%	90分程度 8.3%	60分程度 50.0%	30分程度 16.7%	ほとんどしていない 16.7%	無回答	-		
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.75		■						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 8.3%	やや高かった 75.0%	適切であった 16.7%	やや低かった	非常に低かった	無回答	-		
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.92		■						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 50.0%	注意していた 33.3%	ある程度注意していた 16.7%	あまり注意していませんでした	全く注意していませんでした	無回答	-		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■						
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.42		■						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■						

## 1 授業の概要、特徴等

個人レッスン、ML教室(グループレッスン)、フォロー(グループレッスン)からなり、全て受講して出席となる。バイエル教則本を使用し、必要なグレードを取得する(開始グレードによりそれぞれ異なる) あるレベル以上の者は弾き歌いも取り組む。

## 2 アンケート結果に対する見解

②と③より、全体平均に比べても高く、予習・復習を意識して取り組んでいたことがわかるが、常に目標曲数を伝えたり、残りのレッスン数と進捗について伝えたりしていたのが良かったように思う。⑤に関しては初心者が多かった為、グレード取得に必須の課題(抜粋の曲)のみをさせるのではなく、徐々に階段を昇る様にその間の曲についても課題を出していたが、後期に至っては授業回数内に指定の曲数をこなすのが難しく、必須の曲に絞って取り組んでいたこともあったための結果のように感じる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育士として必要な読譜力、表現力、演奏技術を身に付ける。グレード達成及び平常点、欠席減点、その他の加点、試験点から成績評価を行う。

## 4 授業改善の方法

ピアノ初心者が多数であったが、どの学生も素直に耳を傾けよく取り組んでいた。しかし、自主的に計画し練習を進めることが出来ず、こちらが指示しないとやっとならないこともあり、危機感の少ない学生もいた。グレード表を紛失したり、持参しなかったりということからの意識の低下と思われる。次年度以降は楽譜の表紙にとめる等、指導していきたい。中級レベルの学生に関しては、レッスンでは量より質に重きを置き指導していたが、もう少し沢山の曲に取り組めるような計画をたてたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55305bc・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	8	1	-	-	-	-	-	8	-	-	1

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.56		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 33.3%	90分程度 33.3%	60分程度 11.1%	30分程度 11.1%	ほとんどしていない 11.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 33.3%	90分程度 11.1%	60分程度 11.1%	30分程度 22.2%	ほとんどしていない 22.2%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった -	やや高かった 44.4%	適切であった 44.4%	やや低かった 11.1%	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.22		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 33.3%	注意していた 33.3%	ある程度注意していた 33.3%	あまり注意しなかった -	全く注意しなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.22		■ ◆				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.33		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

授業は集団授業(45分)と個人レッスン+フォローアップ授業(45分)の2つに分けて行われる。集団授業では、弾き歌いへの導入として、伴奏に必要な和音づけ等を学ぶ。個人レッスンでは、それぞれのレベルに応じたピアノ曲を仕上げ、ピアノ実技能力を高める。個人レッスンなので、きめ細やかな指導が可能である。フォローアップ授業では、弾き歌いの準備として、歌唱を主に扱う。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講態度②について ピアノ実技という授業の性格上、練習をほとんどせずに授業を受けることは、是非なくしたい。授業の進め方⑥⑧について 「どちらとも言えない」と「あまり思わない」の割合がこちらの思いよりも高いことが気になる。個人レッスン時のことか集団授業時のことか、具体的に自由記述に記入してもらいたい。理解度を充分配慮しながら授業を進めているつもりでも、学生によっては、まだまだわかりにくい場面もあったことを認識して、さらに配慮を深めたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標グレード課題曲の達成と、発表会形式の実技点、及び平常点の合計が基準をクリアできて、単位認定となる。グレードの進捗度による加点、一定以上の欠席数による減点もある。

## 4 授業改善の方法

「子供のうたの伴奏が弾ける為のピアノ実技能力向上」が大きな目標の一つであるので、ピアノ曲を弾きこなすことと並行して、左手のカデンツをしっかりと身に付けることが必要かと思われる。どんな曲でも場面に応じて、自分で伴奏づけできる応用力をつけてゆきたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55305bd・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 11.1%	60分 程度 44.4%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない	-	無回答
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 11.1%	60分 程度 44.4%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない	-	無回答
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.78		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 55.6%	やや 低かった	-	非常に 低かった	無回答
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	5.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 55.6%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 11.1%	あまり 注意して いなかった	-	全く 注意して いなかった	無回答
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.89		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.67		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩。楽譜の理解。音符の読み方。楽語の理解。グレード別に設定された課題曲を学生の進度別に学習する。グレード中級者からは童謡の弾き歌いを導入する。指導は個人授業とML・フォローでの集団授業の組み合わせで、演奏と伴奏付けの和音等を勉強する。

## 2 アンケート結果に対する見解

ピアノは予習・復習がしっかりできていないとなかなか課題のクリアはむづかしい。少しでも予習・復習がしやすくなるように、譜読みや演奏のポイントを指導している。アンケートを見ると、時間の長短はあるもののピアノの練習をしているようなので良かったと思う。時間の経過と共に、少しずつ課題に取り組む姿勢にバラつきが出てくるので常に学生が前向きに取り組めるよう気を配りたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初級の楽譜が自分で譜読みでき、演奏できる事が目標。決められた曲数を全て合格し、課題曲を試験で演奏する。試験での演奏を複数の講師で採点し、平均点を出す。グレード達成点、平常点等も加味される。

## 4 授業改善の方法

これからも学生が楽しんでピアノの自宅練習が出来るように、色々な角度から興味を引く授業を心がけたい。また、個人授業とML・フォローが連携をとり、学生の指導にあたりたい。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55325ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.75		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった -	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.75		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 75.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.75		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

地域こども学科2回生を対象に、前期の音楽Ⅲに引き続いて開講されている授業である。授業はML教室でのクラス授業と個人レッスンの2つの形態に分けられる。学生はそれぞれのレベルに合ったグレードに従って選んだ曲を練習し、保育の現場で役立つピアノの演奏能力を向上させ、且つ音楽の総合的な力をつけていくよう構成されている。

## 2 アンケート結果に対する見解

ピアノ演奏能力を向上させていくには、何よりも学生本人の事前学習と事後学習の積み重ねが必要である。全体としての印象ではあるが、この事前学習と事後学習の為に時間を捻出しコツコツ努力することのできる学生が多く見受けられ、自分の将来への目標や脳力向上のための意識をしっかりとって受講している様子を心強く思った。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、学生の実力に応じたグレードに従って課題曲数を満たし、試験曲1曲を発表会形式の場で暗譜演奏することで、達成とみなされる。評価は、試験曲の評価点と学習態度や出席状況、グレードの進捗程度などから評価した平常点とを合わせて決定し、単位が認定される。

## 4 授業改善の方法

音楽Ⅳは2回生後期に開講される授業なので、2年間のピアノ学習をまとめ上げるものと言える。また、そのレベルに係らず、演奏能力の向上をめざす意欲を持った学生が多い。従って事前学習や事後学習のために時間をより一層多く確保し、質の良い学習を自らがしていけるよう声かけや指導を心がけたい。達成感を多く経験していくことは、将来保育の現場でも必ず役立つことと思う。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 川端 建治 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 国語科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53010 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.75		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 12.5%	60分 程度 12.5%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 25.0%	無回答	-	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 12.5%	60分 程度 25.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 12.5%	無回答	-	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.75		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 62.5%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.75		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 37.5%	ある程度 注意 していた 62.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.50		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.25		■					

## 1 授業の概要、特徴等

本授業では、小学校国語科教育に関する基礎知識、及び各領域の授業実践に必要な授業力を習得させることを目指して取り組んできた。受講者が少人数であったことを考慮に入れ、授業形態を当初予定の講義中心の進め方から演習方式に改め、教材研究・授業構想・模擬授業による授業実践等に、受講者各自の自力学習や相互の討議を取り入れ、受講者の主体的で自主的な授業参加を促してきた。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講時期が一回生後期という点で、本授業で扱った授業力習得のための教材分析や授業構想、さらに授業実践等の前提となる学習内容は、学生にとって難しかったと思われる。そのため、当初の扱う予定であった内容を大幅に精選し、具体化する必要が生じた。予め資料等を提示し課題を与えたり、授業レジュメや具体的資料を準備したり、学生の主体的参加を目指した「アクティブラーニング」を心がけたが、積極的な授業参加の難しい学生が多かった。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

現行指導要領の目標、及び各領域の指導事項に見られる強調点の理解や、授業におけるその具体化の方法の習得については、旧指導要領との比較検討や、教科書教材の授業における具体的な取り扱い例(指導案・授業記録等)を取り上げ、その考察においては、自力思考や集団討議等を取り入れることで、受講者の主体的・意欲的な学習参加を促した。この目標設定は、前年度と同じである。しかし、今求められている習得と活用をつなぐ「探究的学習の必要性」については、受講者全員の中で、十分理解を図ることができたのは、三分の一ぐらいかと思う。単位認定において、「優」か「良」かの差違の根拠は、これらの習得を活かした指導案作成や模擬授業実践での一定の成果の差を見取った結果である。

## 4 授業改善の方法

2の項でも述べたが、本授業が一回生後期という段階での実施に、学習内容とそれを学ぶ学習者の学習経験・知識基盤・学習能力との間のずれを感じる。教育実習との関係で、時期をずらすことが無理であるので、内容の精選と学びの具体化を工夫するしかない。シラバスでは、各領域の指導内容を、低・中・高学年いずれかの発達段階に絞って扱うことにしていたが、それでも、学生達の主体的参加に力を入れると、時間的にかなり無理がある。教材研究・授業構想・授業実践、それぞれの学習を充実させるためには、今後は、さらに、目標設定を下げてじっくり時間をかけて取り組めるように工夫したい。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 重松 敬一 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 算数科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53020 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 55.6%	ほとんど していない 22.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 44.4%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.11		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 66.7%	適切 であった 22.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.44		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 55.6%	あまり 注意し てい なかつ た 11.1%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.33		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.56		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

本授業の到達目標は次の2つであり、ポイントを→で示している。(ア)小学校算数科の指導内容及び指導方法の基本的な事項を理解する。(イ)小学校算数科の学習指導案の作成について理解する。→ 目標設定にあるポイントは授業の各回のポイントを写真・ビデオなども利用して解説し、それを踏まえて、算数授業実践のロールプレーと学習指導案作成のレポートに向けて、数学的・社会的な視点から算数科教育の意義、指導内容、指導方法、評価などの一層の理解を図った。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生は、一名の大学終了・社会人経験者を除いて、高校を卒業したばかりであり、途中で幼稚園実習も経験したとはいえ、小学校の算数の学びを想起させ、現在の算数科に求められている課題や指導上のポイントなどの学習や指導のイメージ化は難しかったようである。他のテキストを購入させることは避け、学習指導要領解説、算数の検定教科書をテキストとしたり、教員としては将来必要となると考えた内容と量であったが、それを読むことすら難しい(用語など)ようであり、パワーポイントによるプリントを使っただけの授業でもなかなか実感が持ちにくいようであった。(学生:資料が多い、説明が分かりにくい) 選択設問の受講生の希望進路を意識して受講したかどうかの問いにも、どちらとも言えないが33.3%いるなど、将来への進路意識を喚起できるような取組が必要に感じる。ただ、アンケートの実施時期が、授業実践の直後だったこともあり、講義の必要性を少しは理解してくれ、今後役立つという評価(そう思うが33.3%)をしたようである。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

算数教育のポイントの理解と学習指導案作成を目標達成として、授業の参加意識・小課題の達成・レポートの達成で判断し、一名の受験資格無しを受講生を除いて90, 90, 90, 85, 78, 70, 70, 65, 65, で単位認定した。

## 4 授業改善の方法

ロールプレーの授業実践を通して、教材研究や発問など子どもへの学習支援の難しさを知ったようなので、授業での具体的な事例による説明や討議などによるアクティブ・ラーニングとなるよう授業改善を図りたい。その中で、できるだけ受講生にも説明させる機会を設けることを考えている。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 中西 真 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 児童家庭福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 51031ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 73名 **回答者数** : 51名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	49	2	-	-	2	-	47	-	-	2

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.18		[Bar Chart]					◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 3.9%	60分程度 5.9%	30分程度 9.8%	ほとんどしていない 80.4%	無回答 -						
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 5.9%	60分程度 3.9%	30分程度 17.6%	ほとんどしていない 72.5%	無回答 -						
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.24		[Bar Chart]					◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 5.9%	やや高かった 37.3%	適切であった 56.9%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -						
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.86		[Bar Chart]					◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 7.8%	注意していた 51.0%	ある程度注意していた 33.3%	あまり注意していなかった 5.9%	全く注意していなかった -	無回答 2.0%						
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.78		[Bar Chart]					◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		[Bar Chart]					◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.14		[Bar Chart]					◇				

## 1 授業の概要、特徴等

「児童家庭福祉」は、主に保育士の取得を目指す学生(それ以外の学生も受講)を対象に行った授業で、保育士養成の必修科目である。目標は、児童家庭福祉の理念に基づき、少年非行、子育て支援などの福祉実践が培われてきた背景、歴史、法制度等の知識と実践的課題を説明できることである。授業では、学生自らが日常、実習等からイメージし、現場で実践できる力を養うために、ビデオで視聴した事例、関連する資料等を基に背景や対応を考えて記述・発表する機会を作った。毎回、用紙の配布や授業中に学生の意見を聞き、授業に対する学生のニーズを把握して授業に還元したことが特徴である。2015年度は、地域子育て支援センターでフィールドワークを実施した。

## 2 アンケート結果に対する見解

本授業は、受講する学生の知識量・意欲・出席率に格差があり、また保育士の必修科目で教授内容が大筋決まっているために、学生の理解度に応じた授業を行いにくいという前提条件が今年度も継続している。自由記述では「学生の様子を見ながら、質問等受け答えしながら進める」などの回答もあり、工夫が伝わったと思われる。今年も工夫を重ねた結果、教材が授業に役立った項目で92.1%、授業は将来に役立つ項目で82.4%など、思うと回答した学生は多くの項目で7割近くであった。今年は、事前、事後の勉強をほとんどしていない学生が多くいるので、自主的な学びを深めるように促進していくのが今後の課題である。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、児童家庭福祉の理念に基づき、児童虐待の防止、子育て支援などの福祉実践が培われてきた背景、歴史、法制度等の知識と実践的課題を説明できることである。成績評価基準は、最終講義日に実施するまとめと確認(40%)、授業態度(30%)、毎回行った授業内小レポート(30%)とした。また、学生の自主的な学びの促進を目指して、今年度も提出を任意としたレポートを課したが、大半の学生が行った。さらに、フィールドワークで実践における当事者、専門家の思いを学生たちは実感した。単位認定は、学生が提出した小レポート、出席回数によって受験資格を判断して行ったまとめと確認の結果に加え、毎回の受講態度を総合的に鑑みて行った。基準に満たなかった学生には再テストを行い、判断した。その結果、今年度もほとんどの学生が目標達成できた。

## 4 授業改善の方法

学生の知識量に格差がある「構造的な問題解消」として、知識と意欲の多寡でクラス分けをして受講できるようにすることを提案する。その理由として、毎年、学生の理解に多様性があり、学生に意欲差があると教員が尽力してクラス運営をしても各々が不満を持ち、授業にするのが個人の努力だけでは限界があるためである。教員個人の努力として、今年度から改訂されたテキスト、映像資料をさらに考慮し、授業の流れを確認・練習も継続していく。また、授業内容に関して、初学の人達や関連する教員の方々とも意見交換を行い、授業検討会に参加し、研鑽し続ける。勉学の雰囲気は、クラスの活発な議論と学習秩序の維持を両立すると学びが向上するので、継続して留意する。これらの努力により、学生の自主的な学びを促すことを目指す。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 山口 直範 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 社会的養護 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 51061ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 82名 **回答者数** : 68名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	65	2	1	-	-	-	-	68	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.94		■■■■■◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.5%	90分 程度 1.5%	60分 程度 4.4%	30分 程度 13.2%	ほとんど していない	79.4%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.5%	90分 程度 1.5%	60分 程度 1.5%	30分 程度 16.2%	ほとんど していない	79.4%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.19		■■■■■◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 13.2%	やや 高かった 36.8%	適切 であった 45.6%	やや 低かった 2.9%	非常に 低かった -	無回答 1.5%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.56		■■■■■◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 5.9%	注意 していた 63.2%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意し てい なかつ た 1.5%	全く 注意し てい なかつ た 4.4%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.32		■■■■■◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.81		■■■■■◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.13		■■■■■◇				

## 1 授業の概要、特徴等

2年生前期の社会的養護内容につながるための基礎理論を学ぶ内容である。特に施設での保育士に求められる基礎知識を中心とする。基礎理論であるため、退屈を感じる学生もいるであろうが、基礎を知らずして応用はあり得ない。主な内容は、児童の権利、児童虐待、施設の種類と概要、心理的な症状などが中心である。

## 2 アンケート結果に対する見解

全体的に学生からの評価が低かったが、学生の学ぶ姿勢の影響が大きい。筆者の過去7年間の奈良佐保での講義の中で最も学ぶ気持ちがない学生が多かった。もちろん、熱心な学生はいるため、その学生との意識の差が最も大きかったという方が正しいかもしれない。試験で100点の学生は4人いたのだが、再試験を受けた学生は25人ほどいた。同じ日に同じ場所で同じ講義を聞いていたのに、あまりにも乖離している。理解力が著しく乏しい学生がコメントしているようだが、筆者の社会的養護は専任で勤務していた頃にFDで講義参観を受けている。当時のFDでのコメントは「わかりやすい内容だが、大学生なのだからもっと高いレベルで講義してもいいのではないか」という意見であった。その頃に比して、内容を難しくしているわけではないのだが、今回の学生からは「内容が難しくてわからない」というコメントが多くみられた。もし、低い方の学生のレベルに合わせて講義をすると単位のデフレ状態となり、保育士資格の安売りにつながりかねない。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

講義内課題として持ち込み不可での試験を実施した結果、再試験でも不合格者が数名いた。試験は、13回目に実施し、14回目では再試験は全く同じ問題であることを告げてから答え合わせを行った。それでも単位を取得できなかった学生は、100点満点の再試験でも30-40点であった。しかも採点では、答案用紙の裏に試験問題には出ていなかったが社会的養護に関する「専門用語」や「理論」など覚えてきたことを記述したら用語説明の問題と同じ点数で加点(20点)するといった措置をしたにもかかわらずの結果である。この措置は最初のテストでも実施している。児童養護への興味がないのか、学ぶ姿勢がまったく感じられない学生が多かった。従来の学生と同様に評価すると半数以上が不合格となるため単位認定の最低評価基準を60点ではなく50点とした。

## 4 授業改善の方法

学生からのコメントに対して改善する予定は無い。講義が下手だとか、内容が難しくてわからないといったコメントに応じていたら講義の質は下がる一方である。実際に成績の良い学生たちからは、わかりやすい内容で後期も講義があることを楽しみにしているといったコメントを数名から直接聞いている。本調査が学生のすべての意見ではないことをに気をつけなければならない。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 小児保健B **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 52110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 80名 **回答者数** : 64名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	62	1	1	-	-	-	-	64	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.03		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 3.1%	60分 程度 3.1%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 67.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 3.1%	60分 程度 3.1%	30分 程度 28.1%	ほとんど していない 64.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.03		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.8%	やや 高かった 26.6%	適切 であった 62.5%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答 1.6%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.56		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 9.4%	注意 していた 39.1%	ある程度 注意 していた 40.6%	あまり 注意して いなかった 9.4%	全く 注意して いなかった 1.6%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.53		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.29		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

小児の心身の発達成長を基本として、身体各部の発達とそれに伴う各身体の器官の成長を中心に各年齢の違いによる発達や相違を理解しながら子どもの心の発達にも及び子どもの一人一人の個性を見つけ出し、それを見きわめる力量をつけることで一人前の幼児教育者として自立できることを講義の目標とし、さらに子どものけがや病気に対処できるようにくわしく、さまざまな現象に対応できるように講義を進めた。

## 2 アンケート結果に対する見解

今回のアンケートで問題にしたいのは学生が将来に役に立つことができると感じていることと、実習時に何かヒントを見つけ出してくれることです。もう一点は講義で問題意識を持つことが少ない経過になったので要点をしぼって講義したつもりなのが生かされていないのが反省点で今後、生かしていきたいと思っています。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標はほぼ達成できましたが学生に力が付いているかどうかは少し疑問に思います。覚えてほしいことは毎回の小テストで再確認し復習してきましたが、予習の部分が少なかったように思います。最終のテストもノート持ち込みでさえ点数の幅が広がった単位認定はきびしくしたつもりですが少々甘いようにも感じられた。

## 4 授業改善の方法

今回で終講となりますが教室の環境整備に力を尽して下さい。322は秋季はクマンバチが毎週の如く入って学生をおびやかします。授業に学生が力をそそぐことができますようによろしくをお願いします。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 園部 勝章 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 生活 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55200b **授業形態** : 講義 **受講者数** : 30名 **回答者数** : 26名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	26	-	-	-	-	-	25	-	-	1

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.15	■					◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 3.8%	30分程度 11.5%	ほとんどしていない 84.6%	無回答 -						
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 90分程度 -	60分程度 3.8%	30分程度 7.7%	ほとんどしていない 88.5%	無回答 -						
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.27	■					◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや低かった	非常に高かった 3.8%	やや高かった 11.5%	適当であった 84.6%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -					
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.31	■					◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった 38.5%	注意していた 19.2%	ある程度注意していた 30.8%	あまり注意していなかった 7.7%	全く注意していなかった 3.8%	無回答 -					
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.28	■					◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.23	■					◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.15	■					◇				

## 1 授業の概要、特徴等

小学校低学年での「生活科」の指導や教材研究に必要な基礎的知識技能を習得するための授業です。生活科の目標と内容(学校と生活、家庭と生活、地域と生活、公共物・公共施設、自然とのかかわり、身近なモノを使って遊ぶ、動植物観察、表現する方法)について、教科書や物を通して学んでいった。学生自身の経験をひきだしながらの授業でした。そして、地域を知る活動として、「奈良公園・奈良まちの探索活動」を取り入れています。普段の生活の中で、また、探索活動の授業で、奈良の名物の食べ物、奈良公園の動物・木・虫、奈良まちの名所や神社、奈良のシカなどについて調べ、模造紙にまとめて書き、発表をするというとりくみをした。また、自然とのふれあいということで、授業はじめに、3種類の草花を見せ、草花の特徴を知る時間とした。

## 2 アンケート結果に対する見解

⑧「教員は学生の理解度を配慮・・・」ということで、73.1%が肯定的に受け止めてくれていますように、小学校での学びを思い出してくれていた。生活科の教科書のコピーを見ながら、家族のことや地域でのことや昆虫や草花についての学びを行っていた。理科工作でも、楽しくとりくんでいた。⑩「自分の将来に役立つ・・・」について、約1/4が「どちらとも言えない」と答えているのが、少し残念です。自然や社会についての学びをこれからも生かしてほしいと願います。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

生活科の内容についての理解を確かめる意味で、受講者が授業の終わりに「200字以上の感想」を書くことにしている。この感想からは、授業者も学ぶ事が多い。例えば、「小学校の頃の思い出がたくさんよみがえってきました。子どものようにすごく楽しく、いっぱい笑っていっぱい遊んですごく思い出になりました。」とありますように、小学校での学びが大変重要だと思われられました。成績評価基準は、「出席率で20%、200字以上感想30%、探索活動40%、あさがお新聞づくり・小テスト10%」でした。そして、合計60点以上を単位取得と認定しました。

## 4 授業改善の方法

学生による授業アンケートの「⑩この授業は自分の将来に役立つと思いましたか。」の回答が全体平均より低かったのは、授業者の力不足だと反省します。小学校低学年での自然や社会にかかわる学びが、生きていく上で基礎になることをわかってもらえるような授業をしたいと思わせてくれています。そのためには、例えば、春の草花での学びが今後の生物教材での学びに生かされていくことを実感できるように関連を伝えていきたい。保育士として、園児に自然や社会にかかわる学びを生み出せてもらえるように、園児と自然や社会とのかかわりも関連させた授業をしたい。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 小幡 肇 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 生活科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53030 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.89		◇					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 33.3%	60分 程度 33.3%	30分 程度 -	ほとんど していない 22.2%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 33.3%	60分 程度 22.2%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 22.2%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		◇					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 55.6%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.78		◇					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 22.2%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 44.4%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.89		◇					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.78		◇					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.33		◇					

## 1 授業の概要、特徴等

生活科における言語活動の充実及びアクティブラーニングの意識化を主眼とした。そのため読解力の育成・身近な人へのインタビュー活動とその発表等に力を入れた。また、他者の話を了承し整理する読解力の育成にも力を入れた。特に、授業手法として、子どもに「おたずね(質問)」する力を育てることによって言語活動の充実を図ることができることを体得させた。そして、文章力を身に付けさせた。

## 2 アンケート結果に対する見解

事前ワークシートや事後調べ等を課した事により学生の学習時間が増したと考える。学生にとって多忙な中、大変だったと推測できる。反面、雰囲気づくりや説明の仕方、理解度への配慮等に今後の課題が浮かびあがったと考える。そのために今後は学生からの質問や対話する工夫を考えなければならないと考える。また、学生の問題意識を育てたり、授業づくりに対する知的好奇心を高めたりする手だてを考え直していきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

今後、学生が事前ワークシートや事後ワークシートに、どのようなことを記述できていれば優～可なのかといった達成目標を明確に示していく必要があると考えた。また、インタビュー活動において、どのようなことをインタビューできたのかを把握し、そこから全員で考える問題を明確にすることに改善点があると考えた。

## 4 授業改善の方法

①ワークシート作業の際に、どのようなことを考えるとよいのかを示す。 ②作成したワークシートを活用した質問や対話の工夫を図る。 ③現在も取り入れている植物を栽培し対話する活動が充実するように寒い時期でも栽培することができる植物の選定を行う。 ④ホワイトボード(ミニ)を活用したグループ討議の仕方を工夫する。(Y図やボーン図などの思考ツールの導入)

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 北澤 太野 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 体育科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53050 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 44.4%	ほとんど していない 22.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.89		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 88.9%	適切 であった 11.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.88		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 77.8%	ある程度 注意 していた 22.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.44		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.89		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.44		■				

## 1 授業の概要、特徴等

小学校の教員免許状取得を希望する学生を対象とした小学校体育科の内容に関する授業である。授業は体育授業や各領域の内容についての理解を深められるように、講義だけでなく実技も行った。また、少人数の良さを生かし、模擬授業の計画と運営を一人ひとりが経験する場を設けた。模擬授業は、実践上の視点や各領域の特徴、指導方法について考えさせ、さらに、体育授業を観察する視点や授業を省察する方法について学生自身が確認できる場となった。

## 2 アンケート結果に対する見解

評価項目の受講態度②、③から予習・復習について、学生間で差があるように思われる。授業時間毎に予習や復習の観点を示すとともに、各学生の生活実態、理解度に合わせた個別の対応が必要だと考える。選択設問⑩および自由記述⑫から、体育館そのものの設備、模擬授業運営の際に必要なとなった用具に課題があることがわかる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業を履修した学生は、授業内で説明した小学校の体育授業の特徴、指導上のポイントを踏まえ、模擬授業を計画、運営、反省した。こうした一連の取り組みを受講態度(出席を含む)、レポート、模擬授業の運営に用いた指導案の内容から総合的に評価した。その結果、本授業を履修したすべての学生は、授業の目標をおおむね達成したと判断できたため、単位を認定した。

## 4 授業改善の方法

小学校の教員免許状の取得を希望する学生に対して、自分自身が実践現場で体育授業の指導を行う姿を具体的にイメージできるように設備の整備や用具の補充をしていく必要がある。そこで、本科目と深くかかわる教育実習、他の体育館を使用する授業の内容を踏まえて、用具の補充を検討していただけるよう学校に依頼したいと考える。



# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 信田 和則 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 道徳の指導法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53055 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	9	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 77.8%	適切 であった 22.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.11		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.1%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 55.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.11		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.33		■				

## 1 授業の概要、特徴等

集中型の講義であったので、学生の興味関心や意欲の高まりを十分に把握できないままで次の講義を組立てたことが、評価結果の低い項目につながったように思う。参加型の構成での意欲が高かったが、その振り返りでしっかりと知識理解につなげる時間的ゆとりがなかったことを反省し、時間配分を工夫する必要がある。8コマの中でどこまで専門的な内容を教えるかについて再度検討したい。

## 2 アンケート結果に対する見解

非常勤であるために、どうしても期間があいてしまうときがあるので、学生もリズムができにくかったと思う。2コマ連続で、つめこみすぎることもあるので、シラバスとのかねあいも考えながら、講義のポイントをしっかりと精選し、理解しやすい講義内容にすべきだと思った。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

## 4 授業改善の方法

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 田中 善大 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育相談支援 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53311ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	58	1	-	-	-	-	58	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.32		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.4%	90分 程度 1.7%	60分 程度 1.7%	30分 程度 13.6%	ほとんど していない	79.7%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.4%	90分 程度 1.7%	60分 程度 3.4%	30分 程度 13.6%	ほとんど していない	78.0%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.37		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 8.5%	やや 高かった 18.6%	適切 であった 71.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 1.7%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.46		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 18.6%	注意 していた 54.2%	ある程度 注意 していた 23.7%	あまり 注意して いなかった 3.4%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.45		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.34		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.49		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

保護者支援のための基礎的な知識と応用について、講義及び演習を行った。講義では、内容に関する質問を定期的に学生に行い、学生が主体的に考える機会を設定した。講義で習得した知識については、保育場面での例を考える等の演習を行い、知識の定着を図った。他にも、授業内容に関する映像資料を積極的に活用し、学生の理解の促進を行った。

## 2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果から、多くの項目が全体平均を上回っており、また、項目⑤「授業のレベル」についても7割が「適切であった」と回答していたことから、本授業の内容、形式は概ね受講生に適したものであったことが推察される。項目②「事前の学習時間」と③「事後の学習時間」が、全体平均よりも低いものであったことから、この点について改善するための工夫が必要であると考える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内試験、演習課題、受講態度、提出物の状況から単位認定を行った。多くの受講生が、学修成果を達成し、単位の認定を受けたことから、本授業が、学修成果の達成において適切なものであったことがわかる。

## 4 授業改善の方法

アンケート結果から、授業時間外の学習時間の増加にむけた改善が求められる。授業時間外に学習する習慣を身に着けるために、時間外に行う課題を定期的に提示したり、授業以外で自主的に勉強するための方法について授業内で解説を行う等の改善方法が考えられる。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 藤田 悦代 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育表現演習Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53167ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 33名 **回答者数** : 28名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	26	1	1	-	-	-	26	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.50	◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 3.6%	60分程度 3.6%	30分程度 7.1%	ほとんど していない 85.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 3.6%	60分程度 -	30分程度 14.3%	ほとんど していない 82.1%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.61	◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 3.6%	やや高かった 3.6%	適切であった 89.3%	やや低かった -	非常に低かった 3.6%	無回答 -
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.75	◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要は なかった 46.4%	注意していた 32.1%	ある程度注意 していた 21.4%	あまり注意して いなかった -	全く注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.75	◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.57	◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.74	◇				

## 1 授業の概要、特徴等

保育の中にある「表現」活動の実際を経験することによって、幼児の内にある思いを引き出し、幼児の表現力を培う力を見につける。

## 2 アンケート結果に対する見解

子どもの表現に心を開き、驚いたり見守ったり喜んだりする保育者が、子どもにもっと表現したいという気持ちを起こさせる。授業では、楽しい雰囲気の中で新しい知識や技術が得られ関心が高まり、主体的に取り組めるように工夫を行っている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育の中にある「表現」活動における幼児の内にある思いを引き出し、幼児の表現力を培うことができる。

## 4 授業改善の方法

生徒自ら課題意識をもって主体的に取り組み、豊かな感性と表現力を磨いていくように心がけ、「表現演習」の内容が、今後の保育実践に生かされるよう工夫していく。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 増井 啓子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育(表現・幼児造形) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53151abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 78名 **回答者数** : 61名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	61	-	-	-	-	-	-	60	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.38		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 4.9%	60分 程度 4.9%	30分 程度 14.8%	ほとんど していない 73.8%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 3.3%	60分 程度 4.9%	30分 程度 14.8%	ほとんど していない 75.4%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.8%	やや 高かった 18.0%	適切 であった 65.6%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.6%	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.64		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 24.6%	注意 していた 59.0%	ある程度 注意 していた 14.8%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 1.6%	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.59		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.59		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.74		■				

## 1 授業の概要、特徴等

・領域「表現」のねらいと内容から幼児造形の意義と目的を理解する。 ・幼児の造形面での発達段階を踏まえ、造形活動の楽しさや喜びを感じる環境及び援助の在り方を実践的に学ぶ。 ・造形素材、用具、道具の扱い方、制作技術を身に付けると共に、保育者として造形技術を生かした美的な環境を整える豊かな感性を養う。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生自身が主体となって積極的に活動できるよう、特に造形表現を促す環境づくりを工夫している。身近な素材など造形活動の内容に応じて材料や用具を自分で選択できるように物的な環境を整えておくことを意識した。また、出来上がった作品を学生同士で鑑賞し合えるよう作品の展示スペースを設けるなど、学生自身の表現や、感性を豊かにすることを心掛けた。現場での実践や実習、模擬保育にも役立つように、ねらいや方法をわかりやすく表示し、保育者の活動と子どもの活動を分けるなど視点をもつがかりになるよう造形活動のプログラムを計画した。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業への参加態度 (30%) 造形作品及びレポート (70%)

## 4 授業改善の方法

造形活動の授業では片付は大切な要素である。それぞれの材料の始末の仕方を知ってそのものの特性を知ることになる。造形活動の片付けが感性を育てる大切な時間であることを学生自身が認識できるよう継続した丁寧なかかわりが必要である。

# 教員による授業アンケート (2015年度 後期)

**教員名** : 竹花 正剛 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科  
**科目名称** : セラピー概論 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目  
**授業コード** : 7231 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 2名 **回答者数** : 2名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 50.0%	ほとんどしていません 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 50.0%	ほとんどしていません 50.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった -	やや高かった -	適切であった 100.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった -	注意していた 50.0%	ある程度注意していた -	あまり注意していません 50.0%	全く注意していません -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	2.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	2.50		■				

## 1 授業の概要、特徴等

ヒューマンアニマルボンド (HAB) の考え方、基本理を動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、歴史、理論、研究法、実践研究、活動を視覚教材も使用して概観した。社会的福祉、介護福祉分野でのアニマルセラピーの位置づけ、実際の関わり方を、同行する犬と共に実践的観点から展開した授業を行った。犬がセラピーにいかにより有用な動物であるかについて、人と犬の互恵的関係から説明した。

## 2 アンケート結果に対する見解

犬を介在としたアニマルセラピーについて、名前は知ってはいたがセラピーにおける動物の与える効果について、学生の関心、意識が高かったかについては、個人差が大きいようである。講義の内容よりも犬がいることへの関心が高く、セラピー効果についてのデータを数多く示したが、理論的な側面に関して、学生にとってわかりずらかったかもしれない。また、多くの情報(動画も含め)を提供したことで、講義の焦点が不明確になった感がある。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業での目標は、アニマルセラピーの効果、ヒューマンアニマルボンドの理念の理解、動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)の違い、高齢者に及ぼすペットの効果に関してである。成績評価ほぼ基準に達していたと言える。授業内の客観的査定として小テストの実施を行った方がよいかと考える。単位認定に関して、レポートテストの結果からは一定の基準に達していた。

## 4 授業改善の方法

犬が授業に参加することに対して、犬が苦手な学生やアレルギーを示す学生も見受けられた。その点の配慮が必要であるとともに、犬が毎回参加することを周知した上での出席を徹底したい。犬と学生のワークもいくつか取り入れたが、犬に対する学生の知識やかかわり方に個人差も多く、授業はじめに犬の行動、ボディランゲージ、カーミングシグナルなどについての講義を導入する方がよかったと感じる。

